令和２年12月

青　藍　会　会　報

第 96 号

徳島大学医学部医学科同窓会

探求心

徳島大学大学院医歯薬学研究部
画像医学・核医学分野
教授　大塚秀樹

鳴門海峡の夜明け

心新たに新型コロナウイルス感染症に負けずに頑張っていきましょう

撮影　齋藤義郎（医学部16期）

2020年度
青藍会賞募集

青藍会では学術研究の発展と奨励のために
青藍会賞を設けています。

若手研究者の応募をお待ちしています!!

応募締切　2021年1月25日（月）

詳細は19ページをご覧ください

巻　頭　言

藍と戦国

近畿支部長
播　村　佳　昭（医学部28期）

栄えある青藍会会報に寄稿を仰せつかるとは卒業時には夢想しえなかったことです。「出藍の誉れ」を指針とする本会ですが，学問から対極の人生を顧みますと心苦しいばかりであります。文字通り浅学非才の身ですが，近畿支部のお手伝いを拝命することになりました。今後とも何卒よろしくお願いいたします。

巻頭言は時局をテーマにするのが恒例とすればCOVID19は避けることが出来ません。しかしご専門の碩学や臨床の最前線で奮闘されている諸兄姉をさしおいて愚生に話題提供は不相応です。そこで，こういう世相にこそ軽く芸能関連で参ります。

戦国を描くと視聴率が上がると言われるＮＨＫの大河ドラマですが，このたびは我が徳島が脚光を浴びそうです。当時は旧吉野川河畔の藍住町が水運に優れ，阿波国の中心地（室町幕府の守護地）だったのは周知のとおりです。幕府管領細川氏から勝瑞城を引き継いだ三好氏が，阿波国を治めることになりました。覇権者たる織田氏は四国の雄藩，土佐の長宗我部氏を牽制しつつ三好康長を後押しします。長宗我部元親は「条件闘争」的に譲歩を試みますが，恭順の文が信長に届く前に，政変となりました。諸説ありますが，四国取り次ぎ役であった光秀が面目を失ったことが一因ともいわれます。石谷家文書（いしがいけもんじょ）を典拠とする，本能寺の変「四国説」です。四国遠征軍に取り囲まれていた元親は「変」を知るや，俄然勢いつきます。三ヶ月後には怒濤のように阿波侵攻に転じます。康長おらずとも城主十河存保は奮戦，世に言う中富川の戦い。もう一つの天王山でありましょうか。

出藍の誉れ，ご承知の通り荀子『勧学』の一節ですが，「青取之於藍而於藍」の次は「冰水為之而寒於水」だそうです。水が凍ると氷になるけれども，それは水より冷たい。つまり難しい理論を説明するのに当たり前のたとえを示したのでしょうか。時は紀元前300年，七雄戦国時代（本邦では水稲耕作の弥生時代），染料の抽出は最先端のテクノロジーであったことでしょう。それを説くにあたり，日常の事象を例にとるわけです。転じて患者さんに説明するには荀子のこころで臨みたい，と決意を新たにした次第です。とある科目の再試験ですが「脳室をわかりやすく青果業者に説明せよ」「スイカを半分に割ると，巣が」。荀子先生は冒頭で「學不可以已」と説かれます。じつに耳に痛きことかな。

恐々謹言

目　次

○題　　字……大　塚　秀　樹
○写　　真……齋　藤　義　郎
○2020年度青藍会賞募集
○巻　頭　言……播　村　佳　昭
○青藍会会長就任挨拶……荒　瀬　誠　治…… 1
○青藍会会長退任挨拶……桜　井　え　つ…… 2
○令和２年度青藍会総会（書面会議）…… 3
　青藍会会長挨拶……桜　井　え　つ…… 3
　医学部長挨拶……赤　池　雅　史…… 4
　議事要録…… 5
　支部報告…… 5
　事業報告…… 7
　会計報告…… 9
　学術講演（誌上講演）……中　村　教　泰……13
　　松　田　純　子……15
　2019年度青藍会賞の発表および受賞講演（誌上講演）……17
　2019年度青藍会賞選考過程について……安　友　康　二……17
　2019年度青藍会賞受賞講演……石　澤　有　紀……17
○2020年度青藍会賞募集……19
○第37回青藍会・医学科講演会について
　誌上講演「離島医療はおもろいで！～仲間づくり，仕組みづくり～」……白　石　吉　彦……20
○青藍会の助成活動
　クラウドファンディングへの挑戦……池　本　哲　也……23
　　中　西　信　人……24
　徳島大学病院卒後臨床研修センターの活動報告……安　倍　正　博……25
○支 部 だ よ り
　北 海 道 支 部……石　丸　裕　晃……26
　東　京　支　部……上　田　　茂・筒　井　　勝……26
　近　畿　支　部……播　村　佳　昭……27
○会　員　通　信
　岡本太郎氏と私……國　重　昭　郎……28
　森岡久尚先生（45期）の徳島大教授（公衆衛生学分野）就任を祝して……黒　田　恭　弘……29
　極楽浄土？……太　田　房　雄……30
　「先生，黒目が動きません！」……渡　辺　圀　武……31
　医学情報の伝達様式……板　東　　浩……32
　「回顧」～「医師として」そして「妻，娘たち」との北海道生活25年～……長　島　　仁……33
　10期生卒後55周年記念同窓会……今　泉　昌　利……34
　43会（14期生）同窓会報告……露　口　　勝……34

Covid-19にかく闘えり ……本　田　壮　一……36
45期同窓会のご報告……笠　松　由　華……37
俳　　句……小　谷　雄　二・雫　　俊　一・真　鍋　正　広……38
○書 籍 紹 介
「スワンレイクの夏―野生の白鳥たちの子育て―」のご紹介 ……塩　田　　洋……39
○徳島大学の動き
徳島大学大学院医歯薬学研究部新任教授紹介……池　田　康　将……40
大　藤　　純……41
岩　佐　　武……42
添　木　　武……43
徳島大学病院新任教授紹介……酒　井　陽　子……44
○準会員だより
５年目の新生活……佐　藤　庸　介……45
○青藍会の動き
教授就任のご挨拶……岡　田　　賢……46
上　村　浩　一……47
大　日　輝　記……48
病院長就任のご挨拶……菅　　政　治……49
青藍会人事（評議員名簿・支部長名簿・役員名簿・委員会名簿）……50
会員の異動（令和２年10月１日現在）……55
物　故　者……56
青藍会会費納入状況……57
会費納入のお願い……58
事務局からのお願い……59
○投 稿 規 定……60
○編 集 後 記……高　橋　浩　子……61

原稿・写真をお待ちしております

青藍会会報は，会員の皆様からのご寄稿によって発行できており，ご協力に心より感謝申し上げます。
次号97号（６月発行）の締め切りは，４月１日です。

青藍会会長就任挨拶

青藍会会長就任のご挨拶

荒　瀬　誠　治（医学部20期）

数時間で約２万人の死者・行方不明者をだした東北の大惨事から早くも９年が過ぎました。改めて被災地の皆様，特に医療関係者の方々に心よりのエールを送ります。私は先の青藍会総会で桜井（前）会長の後任に選ばれた20期の荒瀬誠治です。青藍会総会がメールと紙媒体のリモート総会となり，会員の方々と直接に会えず，話せず，聞けず，の何もできない３重苦は，超アナログ人間の私には寂しいものでした。私の何が期待されて会長に推挙されたのかもはっきりと自覚できていない若輩ですが，青藍会の発展とは何かを考え続けますので，何卒のご助言，ご意見，ご支援をいただきますよう願うや切です。

さて昨今の話題はコロナ一色となり，国中が不穏・不安状態となり，このままでは日本が滅ぶかのような様相を呈しています。最も危惧するのは，コロナに脅かされ，振り回され，心までもが折れ，コロナ＝個人崩壊＝社会崩壊という言霊に心が乗っ取られ，全ての判断基準がコロナへの態度に支配されつつあることです。畢竟，コロナ感染者は悪人という風潮さえ生まれています。この矛先がどこに向かうのか心配ですが，このような中でも青藍会の皆様には，医療者の本分を全うし胸を張って生活を送っておられることと拝察致します。このことは私たちの誇りです。青藍会はこれからも，どういう状況下でも会員の皆様が胸を張って生きるための要の組織になれるよう努力するつもりです。

母校に目を移しますと，学生らはキャンパスにゆけず，仲間や指導者とも会えず，対面での講義が中止，患者さんと相対する実習すらできていません。今までとは全く異なる学問環境の中で，それまでよりも見事な学生・卒業生，研究成果 etc. を生み出すために，大学は持てる全てを投入し，新しい学問環境・体系を確立しようとしています。青藍会も学生・院生，学部等への協力・支援・援助を通じて，母校の変革・発展に寄与したいものです。母校の発展に尽くす行為とその結果・成果が，母校の充実，見事な卒業生の輩出に継ながればと念じています。自慢でき誇らしく思える母校の成果は会員の心の充実につながるからです。

青藍会は医学部卒業生6,400人をまとめる唯一の団体で「会員相互の親睦・懇親・情報交換を厚くし，学術の向上を図り，母校の発展に尽くす」ために設立されました。同じ場所で若き日々を送り，医学の道を志し，同じ港から医療の世界に船出した者達が，いつでも立ち返ることができる組織でありたいと思います。時は流れて時と知り，友は別れて友と知る（阿久悠）に付け加えるならば，母校は離れて母校・港と知ります。青藍会は，医師への道を育んでくれた母校が，自慢でき誇らしく思える母港になるよう，なれるよう，惜しまず援助し続けながら，会員の総パワーを示す団体でありたいものです。

青藍会会長退任挨拶

青藍会前会長
桜　井　え　つ（医学部16期）

４年前の５月に，前会長の露口勝先生から会長就任打診のお電話がありました。仁木敏晴元会長のご指示で青藍会に関わりだしたものの，能天気な態度で接していた私にとっては，ある意味“晴天の霹靂”でした。女性医師の氷河期に仲間たちと「女性医師の評価を上げるためには，頼まれたことは断らない」をモットーとしていたことを思い出し，エイ，ヤ！とお引き受けした次第です。

最初の１年，やっと軌道に乗りかけた矢先，坂東健一事務長の急な退職があり，困っている窮状をみて17期の高橋智津子先生と20期の河野知弘先生が手助けを申し出てくれました。さらに，事務員の小川由紀子さんに大久保加奈さんが加わりました。この事務局の４人体制は力強く私の両腕というよりは本体を凌ぐ動きをしてくれました。

先輩会長の基本方針を踏襲しながら少しずつ活動をするうちに，いくつかのことに気づきました。一つは徳島大学医学部・青藍会に対し非常に熱い思いを語られる先生方がたくさんおいでる反面，本会の将来を託する若い世代の先生方に母校意識が希薄であることです。若い先生方が参加いただくための働き掛けを行うとともに先輩世代の先生方との懸け橋とならなければならないと考え，新入会の方や卒業され県外に行かれている卒業生の方々に，それぞれの地に青藍会の支部があることをお知らせし地域の先生方と交流されることをお願いしました。もう一つは，青藍会の会計状態が逼迫していることでした。主な原因は会費納入率の低下で母校意識の低下ともつながるのですが，会員の先生方に青藍会に顔を向けていただくために本会が活動している内容を皆さんにお知らせすることも大切かと思いました。

そこで，*一石三鳥*を狙い，各支部の総会に参加させていただき，現状の報告とともに窮状をお話いたしました。また，財務健全化委員会を立ち上げ，切羽詰まった発想で，ご寄付や広告をお願いすることにしました。その結果，財政がひとまずは一息つける状態となったと思います。各支部の先生方，ご支援いただいた医療機関の方々，有志一同という形で広告をいただいた先生，クラス会としてのご寄付などに対し，深く感謝しています。ただ，今になって思うことですが，各支部へ行かせていただいた折，「会費を払ってください。お金をください」の話の連発だったようで恥ずかしく感じております。

皆様のご協力を得て４年の任期を終わりますが，徳島大学医学部が世界に通用する学問の府となり，それを支援することを誇りに思える青藍会であってほしいと願っています。荒瀬誠治新会長の執行部が素晴らしい舵を取っていかれることと期待をしています。

最後に，個人的なことですが，多くの先生方と出会うことができ，私の人生を豊かにしてくれた幸せな４年間でした。繰り返しますが，惜しみない協力をいただいた先生方，医療機関の方たち，事務局の方に心から感謝し，退任の挨拶とさせていただきます。

令和２年度青藍会総会（書面会議）

令和２年度青藍会総会は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため書面による開催といたしました。書面会議の内容をご報告申し上げます。

Ⅰ　青藍会会長挨拶
Ⅱ　医学部長挨拶
Ⅲ　議事要録
Ⅳ　支部報告
Ⅴ　学術講演（誌上講演）
　講師の先生方に，総会当日ご講演いただく予定でありました講演抄録をご寄稿いただきましたので掲載させていただきます。
Ⅵ　2019年度青藍会賞の発表および受賞講演（誌上講演）

Ⅰ　青藍会会長挨拶

青藍会会長挨拶

青藍会会長
桜　井　え　つ（医学部16期）

皆様におかれましては，新型コロナ感染拡大の中で，緊張の連続の毎日と思いますが，ご健勝のことと存じます。皆様のお顔を拝見することなく，評議員会・支部長会・総会の合同会議は紙面での開催になりました。時節柄ご容赦の上，ご了承ください。

毎年と同じような内容で恐縮ですが，青藍会の存在目的は基本的に「会員相互の親睦を厚くし　学術の向上を図り　もって母校の発展に尽くすことを目的とする」に他なりません。巷では四国の医学部の統合などが言われております。最も歴史の長い我が母校がリードできる立場であってほしいと願っております。それには若い世代の母校意識の低下を何とか食い止め，世界に通じる研究などを支援することが重要と考え，このことを中心に活動してきたつもりです。そのため，青藍会活動を活発化するために必要な経済的基盤を確実にすることを最大の課題と考えました。会員の皆様のご協力，会費未納の会員の方への積極的働きかけ，広告・寄付などの暖かい支援で，30年度の単年度黒字に引き続き，令和１年度も比較的多額の黒字になりました（議題３資料）。おかげ様で医学科への寄付や学生さんと保護者の方へ向けての「青藍会だより」も発行できました。

さて青藍会のこの１年間の動きにつきましてお送りします資料の中の一部をご報告いたします。（既に青藍会報94号に掲載しておりますが）昨年11月２日に徳島大学70周年記念事業の一環としての青藍会講演会を開催しました。保健学科の睦眉会との共催で，講師には名古屋医療センター院長で昨年度日本内科学会会頭の長谷川好規先生（26期）をお招きいたしました。テーマは「徳島大学での学びと現在の私～呼吸器病研究へのいざない～」で自分史を交えられながらの和やかなご講演でしたが，同期の先生たちからのユーモアたっぷりの質問などあり，これぞ本来の同窓会のあるべき姿と改めて深く感じました。

同日の11月２日にホームカミングデーとしていくつかの同期会が開催されましたが，「アラかん同窓会」は還暦相当の６学年（26期から31期まで）の合同の会で，それぞれ青春に戻られていたようです。このような縦のつながりの連携プレーで青藍会は盛り上がっていくことが期待されます。

11月16日に待望の北海道支部が誕生しました。猛吹雪の情報の中でしたが，徳島から遠く離れた地でご家族を交えての暖かい船出ができました。

年明け早々に「Student Doctor 認定証授与式および白衣授与」で昨年同様竹田晴一先生のご寄付による青藍会のネーム入りの白衣を贈りました。

２月18日に優秀な研究者に贈る青藍会賞の選考委員会が開かれ，AWA サポートセンター准教授の石澤有紀先生が選ばれました。役員会の承認に続き，本日皆様にもご承認いただくことになっていますが，今後世界に届く研究を期待して賞金の増額をはじめ応募規定変更を提案しております（資料10と付録資料）。

その後，新型コロナウイルスが猛威を振るいだした中，卒業生102名が青藍会の新しい正会員として加わり，新入生114名（男子71名・女子43名）を準会員として迎えました。ただ，従来のような晴れやかな卒業式も入学式も開かれませんでしたが，先輩の気持ちとしてこの若者たちの未来が安穏であることを願い，文書で祝福をいたしました。

コロナの嵐の中で慣れない遠隔授業や経済状態などで不安な毎日を過ごされている学生さんたちへの支援を令和２年度の予算に昨年度より多く計上しております。まだまだ困難な状態が続くようであれば，医学部長と相談し青藍会として思い切った支援方法

も考えるべきと思います。また改めまして皆様にご無理をお願いするかとも思います。その節にはどうぞよろしくお願いいたします。

私が会長になりまして早くも４年経過し，この総会後に退任させていただきます。後任の会長には荒瀬誠治先生を，欠員となった副会長に大串文隆先生を，新しい庶務幹事に近藤彰先生を推薦いたしております。各議題につきまして十分ご審議の上，新しい青藍会の発展に寄与するご意見などをお知らせくださいますようお願いいたします。

最後になりましたが，17期生の高橋智津子先生・20期生の河野知弘先生はじめ皆様方・特に副会長はじめ役員の方々・各支部長の方々や事務局の皆様の強力なバックアップに支えられ何とか過ぎてまいりましたことを感謝いたしております。

Ⅱ　医学部長挨拶

徳島大学医学部長挨拶ならびに現況報告

徳島大学医学部長
赤　池　雅　史（医学部31期）

青藍会の皆様には，医学科教育支援，MD-PhDコース学生支援，ならびに徳島大学70周年記念事業への多大なるご支援をたまわり，誠にありがとうございます。この度の青藍会総会開催にあたり，医学部長として一言ご挨拶と医学部の現状についてご報告いたします。

新型コロナウイルス感染症の拡大により，令和２年度の授業は４月15日からやや遅れて開始され，すべて遠隔授業（e-learning）で実施しています。遠隔授業の経験も十分でない状況で，急遽このような事態になり，当初は実施が危ぶまれていたのですが，有志の教員や学生によるサポート等によって一気に実施体制を整えることができ，大きなトラブルなく実施できております。６月からは基礎系実習や医学研究実習（研究室配属）を中心に対面授業を一部再開する方針です。一方，臨床実習については，学外実習は中止，５年次の学内実習は患者との接触を避けた見学型実習に変更して継続できているものの，６年次は自宅での課題学習及び遠隔指導での代替実施の状況が続いています。今年度は海外交流プログラムもすべて中止となりました。2019年６月１日付で日本医学教育評価機構（JACME）による医学教育分野別評価に認定され，その際に指摘された改善のための助言に対応するために，社会医学実習，健康増進・予防医学およびプライマリケアの臨床実習，重要な診療科（内科，外科，精神科，産婦人科，小児科，家庭医療）の臨床実習の充実等，さらなるカリキュラム改革に着手した直後に，このような極めて困難な事態に直面しておりますが，教職員ならびに学生一同，力を合わせて，乗り越えていく所存です。

組織運営および人事面では，国立大学法人化後の運営交付金削減（前年度比１％）の影響を受け，教授空席となる分野が一時期増えていましたが，苛原稔医歯薬学研究部長（医学部25期）とともに将来構想に基づく組織改革を進めた結果，現在は順調に教授選考が進んでおります。この結果，令和２年１月１日付で，公衆衛生学分野に森岡久尚教授（医学部45期），同年２月１日付で臨床神経学分野に和泉唯信教授（医学部41期），心臓血管外科学分野に秦広樹教授がそれぞれ着任されました。現在，救急集中治療医学分野，産科婦人科学分野，遺伝情報医学分野，薬理学分野の教授選考も順調に進んでおり，さらには，腎臓内科学分野，小児科学分野の教授選考も開始される予定です。新しい優れた教授が次々と着任されることで，教育の質保証，関連病院と連携した若手人材の育成・輩出，世界に通じる研究成果の発信，高度先進医療をはじめとする徳島大学病院での臨床レベルの向上等，徳島大学医学部の発展・活性化に大きく貢献できると確信しております。

施設整備面では，医学臨床Ａ棟と歯学部棟を繋ぐ医歯薬学共同利用棟（写真）が４月１日から利用開始となりました。医歯薬学共同利用棟の西側（図書館側）入り口には大塚オーミによる「医聖ヒポクラテスの誓い」の陶板が飾られています。３階には徳島大学病院の臨床研究センターが入り，２階は医歯薬学研究部の教員スペースになっています。１階の南側半分は東側（徳島大学病院側）に入口があり，敷地内薬局とコンビニが入っています。医歯薬学共同利用棟の竣工により，医学部北側玄関前は，懸案だったムクドリ被害も無くなり，非常に開放感・清潔感のあるスペースに生まれ変わりました。また，スキルスラボ拡充を含めた歯学部棟西側の再開発構想の検討も始まっています。今後は徳島大学初代学長・医学部長である中田篤郎先生の「学者如登山」の碑がある医学基礎Ａ棟北側から図書館南側にかけての整備を進め，医学部棟，医歯薬学共同利用棟，歯学部棟，大塚講堂に囲まれた一帯を，教育・研究の場に相応しい蔵本キャンパスのシンボルゾーンとして整備していきたいと思います。

青藍会の皆様におかれましては，これからもかわ

らぬご指導・ご鞭撻，ならびにご支援をどうかよろしくお願い申し上げます。最後になりましたが，青藍会がますます発展させることを祈念いたしまして，簡単ではございますが，医学部長のご挨拶とさせていただきます。

【追記】
青藍会総会での上記報告の後，令和２年８月１日付で，救急集中治療医学分野に大藤純教授（医学部43期），産科婦人科学分野に岩佐武教授（医学部48期），薬理学分野に池田康将教授（医学部43期）がそれぞれ着任されました。さらには，腎臓内科学分野，小児科学分野の教授選考も開始されています。

医学臨床A棟と歯学部棟を繋ぐ医歯薬学共同利用棟

Ⅲ　議事要録

1　日　時　　令和２年６月10日（水）～
　　令和２年６月30日（火）
2　方　法　　各評議員，各支部長に審議事項に係る関係資料を送付し，委任状・議決権行使書により回答を受領
3　回答者数　80名（評議員133名，支部長14名，合計147名の過半数に達し評議員会・支部長会は成立）
4　議　題
　1）青藍会会員の現状報告
　　正会員数5,647名（総会員数6,413名，物故会員数766名），教授就任７名，病院長就任３名，青藍会出身教授87名
　2）令和元年度青藍会事業報告（別記参照）
　3）令和元年度青藍会収支決算報告（案）
　　原案のとおり承認された。（別記参照）
　4）令和元年度医学部50周年記念事業募金会計決算報告（案）
　　原案のとおり承認された。
　5）令和元年度青藍会館運営費収支決算報告（案）
　　原案のとおり承認された。（別記参照）
　6）令和元年度監査報告（別記参照）
　7）令和２年度青藍会事業計画（案）
　　原案のとおり承認された。（別記参照）
　8）令和２年度青藍会収支予算（案）
　　原案のとおり承認された。（別記参照）
　9）令和２年度青藍会館運営費収支予算（案）
　　原案のとおり承認された。（別記参照）
　10）青藍会賞募集要項改訂について
　　原案のとおり承認された。
　11）青藍会役員の選出について
　　原案のとおり承認された。

Ⅳ　支部報告

北海道支部

北海道支部長
石　丸　裕　晃（医学部27期）

北海道支部は昨年11月16日に設立総会を開催しました。ただその後北海道は全国に先駆けてコロナウイルスに対する緊急事態宣言を行い，収束させましたが，その後第二波が来て，また緊急事態宣言を行いました。従いましていわゆる３密になるような催事などはすべてできなくなりました。現在に至っても，ほとんど活動は行っておらず，今年の総会も中止となりました。ご報告できることはありません。ただ次第に収束傾向にはございますので，もう少し落ち着いた状態となりましたら，活動を再開したいと思っています。

東京支部

東京支部長
上　田　　茂（医学部20期）

この１年間の東京支部活動について報告します。３月14日に開催予定の東京支部総会・講演会は，COVID-19のため延期しました。今後の開催日は決まっていませんが，講師の小山文彦先生（医学部37期，東邦大学教授）は，著書も多く，NHK「きょうの健康」等たびたびテレビ出演をされ，ストレス治療の専門家として活躍されていますので，講演を楽しみにしています。

約160名の先生にメーリングリストに登録してい

ただき，日頃はメーリングリストを通じて会員相互の親睦と交流を図っています。これまで森岡久尚先生（医学部45期）にメーリングリストを管理していただきましたが，本年１月より徳島大学公衆衛生学分野教授に就任されましたので，現在は伊藤滋朗先生（医学部44期，日本医科大学武蔵小杉病院）が管理しています。若い会員が東日本の病院等で初期研修または異動される際は，伊藤滋朗先生（E-mail：shigeo-i@nms.ac.jp）にぜひご連絡いただきたいと思います。

昨年12月10日に幹事会を開き，幹事とオブザーバーの先生の16名が参加しました。後半は森岡先生の教授就任祝賀会としました。これまで長い間，東京支部のためにご尽力いただいたことに多くの方から感謝の言葉がありました。

中部支部

中部支部長
永　田　二　郎（医学部27期）

青藍会中部支部は，愛知・岐阜・三重・静岡・福井の５県で構成されております。コロナの影響と小生の怠慢も相まって，このところ支部会の開催に至っておりませんが，折を見て中部の会を企画いたしたく存じます。当支部に参加ご希望の先生は，小生までご連絡ください。

永田二郎（医学部27期）
一宮市浅井町小日比野字新太37　尾洲病院外科
E-mail：nagataji@nifty.com

近畿支部

近畿支部長
播　村　佳　昭（医学部28期）

本年度より中川正支部長から引き継ぐことになった28期の播村佳昭です。どうかよろしくお願い申し上げます。青藍会報95号で報告しましたように，令和２年２月15日に，ホテルグランビア大阪にて元年度近畿支部会総会を開催しました。会務報告のあと，本学泌尿器科学分野教授の金山博臣先生（28期）に「泌尿器科におけるロボット支援手術の現状と展望」と題して記念講演をお願いしました。鮮やかな手術動画を交えて優れた臨床実績を示していただきました。また本会会計というお立場から本学の現況についてもご紹介下さいました。COVID-19の収束にはまだまだ日時を要するかと懸念されます。本年度の当支部会は令和３年２月の予定ですが，通常開催の可否についての不透明な状況はいずれの支部においても同じかと拝察いたします。元気なお顔を見せていただけることを願っております。

高知支部

高知支部長
中　村　章一郎（医学部20期）

今年は新型コロナウイルスの影響で高知県下のほとんどのイベントが中止されています。県下最大の催しである“よさこい祭り”も中止され，よさこいのないさみしい夏となりました。また，３月に予定されていた土佐カントリークラブでの明治安田生命レディース横浜タイヤゴルフトーナメントも中止，11月開催予定だった黒潮カントリークラブのカシオワールドオープンゴルフトーナメントも中止との発表がありました。さらに，来年２月に予定されていた“龍馬マラソン”も開催をみおくることとなりました。９月15日現在の高知県の感染状況は，感染者累計137人（入院中７人，死亡４人，退院126人）で，幸いにも現在重症者はいません。このような現状の中での支部活動は困難を極め，毎年恒例の支部総会，講演会も中止せざるを得ませんでした。新型コロナウイルスの治療薬，ワクチンの開発が待たれます。

事　業　報　告

令和元年度　事 業 報 告（平成31年４月１日～令和２年３月31日）

［実　施　事　業］

平成31年４月５日（金）
　徳島大学医学部医学科新入生歓迎会開催
　入学生114名

令和元年６月17日（月）
　青藍会会報第93号発行（5,700部）

令和元年７月９日（火）
　青藍会奨励賞授与（医学科６年次臨床実習後OSCE 優秀者表彰）

令和元年７月15日（月）
　青藍会賞授与

令和元年７月16日（火）
　徳島大学病院卒後臨床研修センターへの寄付

令和元年９月５日（木）
　医学科への寄付（医学科教育支援）

令和元年９月７日（土）
　高知支部総会に参加（桜井えつ会長，松浦哲也特任教授）

令和元年９月28日（土）
　愛媛支部総会に参加（桜井えつ会長）

令和元年11月２日（土）
　第36回青藍会・医学科講演会，徳島大学創立70周年記念事業ホームカミングデー開催
　「徳島大学での学びと現在の私～呼吸器病研究へのいざない～」
　講師　国立病院機構理事　名古屋医療センター院長　長谷川　好規　先生

令和元年11月10日（日）
　兵庫支部総会に参加（丹黒章教授）

令和元年11月16日（土）
　北海道支部設立総会に参加（桜井えつ会長，丹黒章教授）

令和元年12月17日（火）
　青藍会会報第94号発行（5,500部）

令和２年１月６日（月）
　医学科４年生に白衣授与・Student Doctor 認定証授与式に出席（桜井えつ会長）

令和２年１月６日（月）
　青藍会奨励賞授与（医学科３年次医学研究実習ポスター発表優秀者表彰）

令和２年２月15日（土）
　近畿支部総会に参加（金山博臣教授）

令和２年３月９日（月）
　青藍会だより創刊号発行（2,500部）

令和２年３月23日（月）
　医学部66期生（102名）に記念品（カード型モバイルバッテリー，会報第93号，会報第94号，青藍会だより，ようこそ青藍会へ，青藍の碑）贈呈

［会 議 の 開 催］

令和元年５月10日（金）
　役員会（メール会議）
　⑴平成31年度青藍会各支部への支援配分額について

令和元年５月29日（水）
　広報委員会
　⑴青藍会会報第93号の編集について
　⑵青藍会会報第94号（令和元年12月発行）について
　⑶その他

令和元年６月４日（火）
　財務健全化委員会（メール会議）
　⑴医学科への支援について

令和元年６月12日（水）
　役員会
　⑴名誉会員の推薦について
　⑵広報委員の変更について
　⑶令和元年度青藍会総会について
　⑷第36回青藍会・医学科講演会・ホームカミングデーの開催について
　⑸その他

令和元年７月１日（月）
　役員会（メール会議）
　⑴広報委員について

令和元年７月15日（月）
　令和元年度青藍会総会・評議員会・支部長会議
　会議終了後，青藍会賞受賞者学術講演及び学術講演を実施
　内容は会報第94号に掲載

令和元年８月27日（火）
　役員会
　⑴青藍会会報第94号の編集について
　⑵青藍会のニュースレター（学生・保護者送付

用）の作成について
⑶医学科への支援について
⑷医学部６年生に対する会費納入のお願いについて
⑸令和元年度卒業生への記念品について
⑹徳島大学同窓会連合会のニュースレター投稿への推薦者について
⑺同窓会連合会交流会「びざん会」の開催について
⑻ホームカミングデーの開催について
⑼青藍会会費納入のコンビニ決済について
⑽その他
①令和２年度青藍会総会の開催について
② NPO 法人卒後臨床研修評価機構の受審について

令和元年10月11日（金）
講演会実行委員会
⑴第36回青藍会・医学科講演会について
⑵その他

令和元年11月20日（水）
広報委員会
⑴青藍会会報第94号の編集について
⑵青藍会会報第95号（令和２年６月発行）について
⑶青藍会ニュースレターの掲載内容について
⑷その他

令和２年１月20日（月）
講演会実行委員会
⑴第36回青藍会・医学科講演会，徳島大学創立70周年記念事業ホームカミングデーの実施結果について
⑵第37回（令和２年度）青藍会・医学科講演会の実施計画について
⑶その他

令和２年２月４日（火）
広報委員会
⑴青藍会だよりの編集について
⑵その他

令和２年２月18日（火）
青藍会賞選考委員会
⑴2019年度青藍会賞の選考について
⑵2020年度青藍会賞の募集について
⑶その他

令和２年２月20日（木）
役員会
⑴青藍会会報第95号について
⑵青藍会だよりについて
⑶徳島大学同窓会連合会ニュースレター投稿への推薦者について
⑷各支部への経費支援について
⑸2019年度青藍会賞について
⑹委員の交替について
⑺令和２年度新入生歓迎会について
⑻令和２年度青藍会総会学術講演講師について
⑼令和２年度（第37回）青藍会・医学科講演会について
⑽その他
①「会費納入のお願い」の発送について
②令和元年度徳島大学卒業式・令和２年度入学式について

令和２年度　事 業 計 画

1　新入生歓迎会（４月６日）
徳島大学の入学式中止に準じ中止。
桜井会長のお祝いメッセージ等を贈呈。
2　青藍会会報95号（６月）・96号（12月）発行，青藍会だより第２号発行
3　青藍会総会・評議員会・支部長会開催（書面会議）（６月）
4　青藍会賞授与（７月）
5　青藍会奨励賞授与（医学科６年次臨床実習後 OSCE 優秀者表彰）（７月）
6　青藍会 MD-PhD 奨励金授与（７月）
7　青藍会 MD-PhD コース海外留学助成
8　青藍会スポーツ奨励賞授与
9　医学科への寄付
10　徳島大学病院卒後臨床研修センターへの寄付
11　第37回青藍会・医学科講演会（10月22日）
12　白衣授与（医学科４年）（１月）
13　青藍会奨励賞授与（医学科３年次医学研究実習ポスター発表優秀者表彰）（１月）
14　卒業生への記念品贈呈（３月）
15　青藍会各支部総会への本部役員派遣
16　役員会・各種委員会
17　青藍会館の管理・運営
18　その他

Ⅴ　学術講演（誌上講演）

講師の先生方に，総会当日ご講演いただく予定でありました講演抄録をご寄稿いただきましたので掲載させていただきます。

ナノ医学・セラノスティクスの発展に向けて

山口大学大学院医学系研究科器官解剖学
教授　中　村　教　泰（医学部38期）

はじめに

「セラノスティクス（Theranostics）」とは，治療と診断を意味する「Therapy」と「Diagnosis」を組み合わせた新しい医学用語であり，診断と治療の一体化・複合化を意味する。ナノ医学（Nanomedicine）とよばれるナノテクノロジーを駆使した医学においては，セラノスティクスの実現に向けてナノ粒子を用いた研究が進められている。それはドラッグデリバリーや温熱療法などの治療とイメージングによる診断を同時に行うことができる多機能ナノ粒子の作製とその医学的応用である。当講座では独自に開発した有機シリカナノ粒子を活用したナノ医学，そしてセラノスティクスの発展に重点をおいて研究を進めている。

有機シリカナノ粒子の特徴

シリカとはケイ素と酸素からなる二酸化ケイ素（SiO_2）を意味する。シリカから構成されるシリカナノ粒子は生体親和性が高いなど多くの有用性を有している。しかし，従来から使用されている（無機）シリカナノ粒子の粒子表面はシラノール基が存在するのみで粒子の多機能化は必ずしも容易ではない。我々は（３-メルカプトプロピル）トリエトキシシランなどの有機シリカ化合物を唯一の材料として新規な有機シリカナノ粒子の作製に成功している[1)]。有機シリカナノ粒子は作製した時点で表面と内部にチオール基などの官能基を有している。この官能基を利用して機能性物質を粒子内部に含有させる内部機能化，ならびに表面に結合させる表面機能化により多機能化が効率よく行える。これまで様々な蛍光色素や金属イオン，機能性ナノ粒子などを粒子内に取り込ませ蛍光ナノ粒子など多機能化有機シリカナノ粒子の作製に成功している。

シリカナノ粒子のイメージング（画像診断）への応用

ナノ粒子をイメージングなど医学生物学的に活用することのメリットとして，ナノ構造体の内部に大量の機能性分子を含有させる高機能化や複数種類の機能性分子を含有させることによる多機能化が挙げられる。さらにナノ構造体の大きさや形あるいは表面構造などの物理化学的な因子に関連し，生体内並びに細胞内での分布に変化が生じる。特にEPR効果（Enhanced Permeation and Retention Effect）と呼ばれる有用な特性が知られている。それはがん組織における血管とリンパ管の組織学的特徴から特定の大きさ（50～200nm）のナノ粒子が正常組織に比べてがん組織により高度に集積する効果である。この効果はドラッグデリバリーシステムなどのがん治療やその診断において大きなメリットとなる。また顕微観察を含むイメージングや画像診断についてもナノ粒子の応用が進められつつある。酸化鉄ナノ粒子は核磁気共鳴画像法（MRI）の造影剤として既に臨床現場で使用されている。またカドミウム・セレンなどで構成される蛍光ナノ粒子の量子ドットは市販され研究用試薬として応用されている。その他，金ナノ粒子やシリカナノ粒子なども診断や治療への応用が進められている。

我々は有機シリカナノ粒子の医学生物学的応用を進めており，有機シリカ構造内に大量の蛍光色素を含有させて蛍光特性の高機能化に成功したものが蛍光有機シリカナノ粒子である。これは従来の蛍光色素や蛍光タンパク質と比較して高輝度であると共に蛍光安定性が高いなどの優位性を持っている。本粒子は細胞膜上のタンパク質の分子追跡，in vivoやin vitroにおける細胞の粒子取り込みのリアルタイム観察，腫瘍組織のin vivoと組織切片での同時連続観察が可能なマルチカラー蛍光イメージング等，有用なイメージングに応用可能である[2-7)]。

シリカナノ粒子のミクロからナノレベルでの応用に加えて，マクロ，すなわち生体レベルでのイメージングへの応用が行われている。またナノ粒子の多機能化により，蛍光プローブとしての機能に加えてMRIやX線イメージングなどの他のモダリティと複合化してマルチモーダルイメージングが可能なプローブの開発が進んでいる。マルチモーダルイメージングは，PETやMRI，蛍光イメージングが持つ感度や解像度，空間・時間化分解能などの長所を融合することにより腫瘍組織などの標的組織や細胞の生体内情報をより正確に収集することができる。マルチモーダルイメージングが可能な有機シリカナノ粒子の作製も成功している。粒子の内部に酸化鉄と蛍光色素を含有し，MRIと蛍光イメージングが同

時に行える有機シリカナノ粒子を作製した。本粒子により肝がんのマクロ観察，並びに組織構造に関連するミクロ観察，さらにその中間的なメソスコピック観察において新しい知見が得られた。正常の肝臓では肝小葉の配列が観察できるのに対して，肝がんを発症した肝臓では，肝小葉の配列が認められず，正常な肝臓の所見とは全く異なっていた。マルチモーダルイメージングによりがん組織のより詳細な観察が可能であることが示された。また生体蛍光イメージングが可能な近赤外蛍光有機シリカナノ粒子の作製に成功し，生体においてがん組織の検出や免疫細胞の動態観察を行うことができた[7)]。

おわりに

近年，シリカナノ粒子の医療応用の成果が顕在化している。米国ではポジトロン・エミッション・トモグラフィー（Positron Emission Tomography: PET）において腫瘍組織の画像診断に用いる新しい造影剤として直径７nm の無機シリカナノ粒子の臨床治験が進められ，安全性と有用性について良好な結果が報告されている。またマイクロサイズの無機シリカ粒子である TheraSphere®が肝がん治療薬として米国 FDA に認可されている。これらはシリカ粒子が診断薬と治療薬，さらにはセラノスティクスに応用可能な次世代型の新素材であることを示している。現在，臨床開発が活発に進められている（無機）シリカ粒子と比較しても有機シリカナノ粒子は優れた多機能性を有し，様々なイメージングや治療など医学的応用が進められている。我々の研究は「ナノ・セラノスティクス国際センター」として山口大学研究拠点群形成プロジェクトに採択され南カリフォルニア研究所群との国際連携を含め推進している。有機シリカナノ粒子の多機能化と高機能化に対する材料学的優位性を活用して，MRI や近赤外蛍光イメージングなどの画像診断機能と温熱治療や放射線治療などの治療機能の一体化を実現した高機能セラノスティクス医薬の開発が進行している。

文　献

１）Nakamura M. (2012) Biomedical applications of organosilica nanoparticles toward theranostics, Nanotechnology Reviews, 1 (6), 469–491.

２）Nakamura M., Awaad A., Hayashi K., Ochiai K., Ishimura K. (2012) Thiol-organosilica particles internally functionalized with propidium iodide as a multicolor fluorescence and X-ray computed tomography probe and application for non-invasive functional gastrointestinal tract imaging. Chemistry of Materials, 24, 3772–3779.

３）Nakamura M., Hayashi K., Nakano M., Kanadani T., Miyamoto K., Kori T., Horikawa K. (2015) Identification of polyethylene glycol-resistant macrophages on stealth imaging in vitro using fluorescent organosilica nanoparticles. ACS Nano, 9 (2), 1058–1071.

４）Nakamura M., Hayashi K., Kubo H., Kanadani T., Harada M., Yogo T. (2017) Relaxometric property of organosilica nanoparticles internally functionalized with iron oxide and fluorescent dye for multimodal imaging. Journal of Colloid and Interface Science, 492, 127–135.

５）中村教泰．(2018) シリカナノ粒子の高機能セラノスティクス（第27章）ドラッグデリバリーシステム－バイオ医薬品創成に向けた組織，細胞内，核内送達技術の開発．シーエムシー出版．

６）Nakamura M. (2018) Organosilica nanoparticles and medical imaging (Chapter 8), The Enzymes, Volume 44, 137–173, Elsevier Inc.

７）Nakamura M., Hayashi K., Nakamura J., Mochizuki C., Murakami T., Miki H., Ozaki S., Abe M. (2020) Near-infrared fluorescent thiol-organosilica nanoparticles that are functionalized with IR-820 and their applications for long-term imaging of in situ labeled cells and depth-dependent tumor in vivo imaging. Chemistry of Materials, 32, 7201–7214.

スフィンゴ脂質の生物機能と疾患：小児の希少難病から生命の動作原理の解明へ

川崎医科大学病態代謝学
教授　松　田　純　子（医学部35期）

病態代謝学教室では，「スフィンゴ糖脂質の生物機能と疾患」というキーワードで，主に糖鎖と脂質の分野で研究を行っています。本稿では，私たちが何故，スフィンゴ糖脂質研究をしているのか，そして現在進めている研究の一端を紹介させていただきます。先生方に興味を持っていただいて，今後の共同研究につながれば幸甚です。

何故，スフィンゴ糖脂質研究か？

2003年，ヒトのゲノムの全塩基配列が決定され，私たちは生命の謎を解く暗号を手に入れました。しかし，私たちの身体は遺伝子産物であるタンパク質のみでできているわけではなく，全遺伝子の機能が解明されても，解決できない問題があります。その一つが糖鎖と脂質の機能です。糖鎖と脂質はタンパク質とともに重要な生命の部品ですが，遺伝子で定義されているのではなく，遺伝子産物である酵素タンパク質の働きで，鋳型なしに極めて多様な構造が生み出されます。

生物の基本単位である細胞を構成している生体膜は脂質二重膜の名称のとおり，脂質が主要な構成成分です。1972年にSingerとNicolsonによって提唱された生体膜の流動モザイクモデルでは，脂質分子の多様性や意義はあまり考慮されておらず，脂質分子は平面上に一様に分布しているような描き方をされています。しかし，1990年代初頭には，生体膜はランダムで均一な構造体ではなく，ところどころに特定の脂質分子が集まった膜マイクロドメインあるいは脂質ラフトを作り，受容体や細胞の接着に関わるタンパク質などが集積して，膜の内外の情報伝達プラットフォームを形成しているという概念が登場しました。この脂質ラフトの形成に重要な役割を持っていると考えられているのがスフィンゴ糖脂質です。

スフィンゴ糖脂質は，グリセロリン脂質，ステロールとともに生体膜を形成する主要な脂質分子であり，すべての真核生物に存在します。疎水性部分として，脂肪酸とスフィンゴイド塩基とよばれる長鎖アミノアルコールがアミド結合したセラミド構造をもち，親水性部分としてセラミドに糖鎖が結合しています。糖鎖構造により，グロボ系，ガングリオ系，ラクト系に分類され，発現する糖脂質の種類は，組織や細胞によって異なります。例えば，神経細胞にはガングリオ系のガングリオシドが多く，ミエリン鞘にはガラクトシルセラミドとスルファチドが大量に含まれます。スフィンゴ糖脂質は，血管形成，皮膚バリア形成，細菌毒素やウイルス受容体，糖代謝，神経機能，免疫など多くの生理機能において重要な働きをもつことがわかってきています。その代謝の異常は，リソソーム病の一群であるスフィンゴ脂質蓄積症（スフィンゴリピドーシス）を含むいくつかの遺伝性疾患の原因として知られるだけでなく，生活習慣病やガンそして認知症といった多因子疾患にも関わっていることがわかってきています。最近では，スフィンゴ糖脂質代謝をターゲットとした病気の予防や治療さえも現実のものとなりつつあります。このような背景から，私たちは，スフィンゴ糖脂質研究を通して，生命の基本現象を紐解き，さまざまな疾患の制御につながる研究成果を上げることを目指して，地道に基礎研究に取り組んでいます。

現在進めている研究の紹介

１．生体膜脂質―スフィンゴ糖脂質―の構造多様性が担う生物機能の解明

近年の質量分析技術の進歩により，スフィンゴ糖脂質には糖鎖部分に加えて，脂質部分であるセラミド骨格にもさまざまな構造多様性があることがわかってきました。哺乳類の主要なセラミド骨格のスフィンゴイド塩基は，Ｃ４位とＣ５位の間に二重結合をもつスフィンゴシンですが，小腸や腎臓の上皮細胞には，Ｃ４位に水酸基が付加したフィトスフィンゴシンをもつフィトセラミド構造が特徴的かつ豊富に存在することが知られています。このフィトセラミド構造の生物学的意義はいまだ明らかになっていません。そこで，私たちは，フィトセラミド構造の合成に関わる酵素遺伝子ジヒドロセラミド：スフィンガニンＣ４-水酸化酵素（*Des2*）のノックアウトマウス（*Des2*-KO）を独自に作成し，フィトセラミド構造欠損マウスの表現型解析に取り組んでいます。

２．神経型スフィンゴ脂質蓄積症（スフィンゴリピドーシス）とパーキンソン病に共通する新たな神経病態メカニズムの解明

スフィンゴ糖脂質のライソゾームにおける分解異常症は，小児期に重篤な神経症状を呈するスフィンゴ脂質蓄積症（スフィンゴリピドーシス）を引き起こします。スフィンゴ脂質活性化タンパク質―サポシン（SAPs)-A，B，C，D―は，リソソームに

おけるスフィンゴ脂質の分解において，加水分解酵素とともに必須の疎水性糖タンパク質で，前駆体であるプロサポシン（PSAP）遺伝子にコードされています。SAP-A，SAP-B，SAP-C はヒトの欠損症が報告されており，それぞれ，クラッベ病，異染性白質ジストロフィー，ゴーシェ病に類似した神経型スフィンゴリピドーシスの表現型を呈します。私たちは，世界に先駆けて，SAP-A，SAP-C および SAP-D の各特異的欠損マウスを作製してきましたが，最近では，唯一，ヒトの欠損症の報告がない SAP-D について，その機能を明らかにしたいと考え，*Sap-D* 欠損マウス（*Sap-D*-KO）の神経病態解析に取り組んでいます。その過程で，*Sap-D*-KO は，小脳プルキンエ細胞の変性・脱落に加えて，パーキンソン病の特徴である黒質ドパミン神経細胞の変性・脱落を呈することを発見しました（Brain. 143：1190-205，2020）。現在，*Sap-D*-KO を用いて，Rare disease である神経型リソソーム病と，Common disease であるパーキンソン病に共通する神経病態メカニズムの解明に取り組んでいます。

３．遺伝性脱髄疾患－クラッベ病－に対する新規治療法の開発研究

クラッベ病は，グロボイド細胞白質ジストロフィーともよばれ，リソソーム酵素ガラクトシルセラミダーゼ（GALC）の欠損により，中枢神経のオリゴデンドログリアおよび末梢神経のシュワン細胞が障害され，中枢および末梢神経系の脱随（髄鞘の破壊）をきたす常染色体劣性遺伝性の神経型スフィンゴリピドーシスです。GALC の主な基質であるガラクトシルセラミドは蓄積せず，微量な基質のリゾ脂質ガラクトシルスフィンゴシン（サイコシン）が蓄積することにより，細胞障害が引き起こされると考えられています。根本的治療として，発症早期の造血幹細胞移植の有効性が報告されていますが，適応は限られており，新たな治療戦略の開発が熱望されています。私たちは，最近，クラッベ病モデルマウスである自然発生の GALC 欠損マウス（*Twitcher* マウス）の脳から，オリゴデンドログリアを初代培養する実験系と，高速液体クロマトグラフィー（HPLC）によるサイコシンの測定系を確立しました（Neurobiol. Dis. 120：51-62，2018）。現在，この実験系を用いて，サイコシンの生成を抑制する薬剤のスクリーニングを行い，クラッベ病の新たな治療法開発を目指しています。

最後に，当科で飼育している（凍結精子・胚を含む）遺伝子改変マウスの一覧を示しました。ご興味のある先生方におかれましてはご連絡を頂ければ幸甚です。

表１．病態代謝学教室で飼育している遺伝子改変マウス一覧（凍結精子・胚を含む）

PSAP-TG	プロサポシンを過剰発現する。
Psap-KO	プロサポシンを欠損する。 リソソーム病，スフィンゴ脂質蓄積症の研究に。
Sap-A-KO	サポシン A を欠損する。 リソソーム病，クラッベ病，脱髄疾患のモデル
Sap-C-KO	サポシン C を欠損する。 リソソーム病，ゴーシェ病，神経変性疾患のモデル
Sap-D-KO	サポシン D を欠損する。 リソソーム病，酸性セラミダーゼ活性の低下，神経変性疾患のモデル
Galc-KO（*Twitcher*）	自然発生のガラクトシルセラミダーゼ欠損マウス リソソーム病，クラッベ病，脱髄疾患のモデル
Des2-KO	フィトセラミドを欠損する。

Ⅵ　2019年度青藍会賞の発表および受賞講演（誌上講演）

2019年度青藍会賞選考過程について

役員会学術委員
安　友　康　二（医学部36期）

第27回2019年度青藍会賞の選考委員会を令和２年２月18日に開催しました。今回は３名の応募があり，青藍会から依頼しました６名の選考委員の先生方に事前に書面審査をお願いし，当日，欠席の選考委員から書面でいただいた審査結果を合わせて，出席可能であった５名の選考委員による合議審査が行われました。なお，今回の選考委員長には委員間の互選により西村明儒先生が選出されました。

３名からの応募論文はいずれも優れた研究成果であるという評価でしたが，論文内容の質および今後の研究の発展性について総合的な観点からの選考がなされ，全員一致で以下の１名を青藍会賞の受賞対象者として選考いたしました。

なお，今後の青藍会賞のあり方について議論がなされ，話し合われた内容について次回の公募に反映させるべく役員会に諮ることとなりました。

受 賞 者　石　澤　有　紀　氏（医学部54期）
徳島大学　AWA サポートセンター准教授

受賞論文

Development of a novel aortic dissection mouse model and evaluation of drug efficacy using in-vivo assays and database analyses

来年も引き続き積極的な応募をよろしくお願いいたします。

令和２年２月20日に開催された役員会において，審議の結果，承認されました。

『新規大動脈解離モデルマウスの確立と，動物実験およびデータベース解析を用いた薬効評価』

徳島大学AWAサポートセンター准教授
石　澤　有　紀（医学部54期）

このたびは栄誉ある青藍会賞を賜り，2019年度会長桜井えつ先生はじめ，青藍会の先生方に心より御礼申し上げます。今年度はCOVID-19感染予防のために青藍会総会が中止となり，受賞講演の場で直接研究内容をご紹介することが叶いませんでした。誌上のみとなってしまい残念ですが，ここに受賞論文の概要についてご紹介申し上げます。

１．大動脈解離モデルマウスの確立

急性大動脈解離は近年その罹患率が増加しており，多くの場合致死的な転機をたどります。しかしながら，現在のところ有効な治療薬や予防戦略は確立されていないのが実情です。その要因として，大動脈解離が急激な発症・進展の経過をたどるために臨床研究のデザインが非常に困難であること，さらにこれまで有用な動物モデルが確立されていなかったため基礎研究レベルにおいても病態解明，予防薬探索が充分になされていなかったことが考えられています。

我々は，すでに確立されている大動脈瘤モデルマウスに内皮障害の病態を加えることで，高率に解離を発症し得るマウスの作製に成功しました。大動脈瘤と大動脈解離はいずれも高血圧，中膜の脆弱化がその発症に重要な役割を果たしていることが示唆されておりますが，両疾患の大きな違いとしてあげられるのが，大動脈内膜破綻の有無です。動物モデルとしては，野生型 C57Bl/6J マウスに対し高血圧を引き起こす angiotensin II（Ang II）と，コラーゲンの架橋を阻害することで血管平滑筋層の弾性板を断裂させ，中膜脆弱化を惹起する β-aminopropionitrile（BAPN）を持続投与すると，マウス胸腹部大動脈に瘤が形成されることがすでに報告されております（AB 群）。そこに，一酸化窒素合成酵素（NOS）阻害剤である L-NAME を負荷することで内皮機能が障害され，大動脈解離の発症率および大動脈破裂による死亡例が優位に増加することを見出しました（LAB 群）。

２．大動脈解離モデルマウスにおけるピタバスタチンの発症抑制効果の評価

これまでの研究から血管内皮障害に対する改善作用を有することが報告されているスタチン系薬剤

の中から，ピタバスタチンの大動脈解離発症に対する予防効果について，新規モデルマウスを用いて検証いたしました。LAB 群に対しピタバスタチンを前投与した群では，解離の発症率が優位に抑制されることが明らかとなりました（解離発症率：70% →18%，大動脈破裂による死亡：20% → 0 %）。大動脈の組織学的変化を検討しましたところ，中膜弾性板の崩壊・変性スコアがピタバスタチン投与により改善しました。また，マクロファージの特異的マーカー Mac2を用いて免疫染色を行ったところ，血管壁へのマクロファージ浸潤が有意に抑制されていることが観察されました。このことは同じくマクロファージ特異的マーカーである F4/80や CD68の mRNA 発現抑制からも証明されました。このように，ピタバスタチンの抗炎症作用が大動脈解離発症抑制の機序の一つと考えられます。この抗炎症作用には，血管内皮細胞における vascular cell adhesion molecule（VCAM）- 1 の発現抑制が関与している可能性が，培養細胞を用いた検討から示されました。

また，ピタバスタチンは血管内皮細胞での NOS 発現を増加させ，大動脈組織中での窒素化合物（NOx）の産生を増加させることを見出しました。その結果，大動脈壁における酸化ストレスすなわち活性酸素種の産生が抑制されていることが蛍光染色により観察されました。このことから，ピタバスタチンは大動脈において酸化ストレスを軽減することが明らかとなりました。

本マウスでは，L-NAME を負荷することで内皮障害を惹起しております。そこで，大動脈内皮細胞の形態を生体内の状態のまま観察することのできる en face 免疫染色法を用いて L-NAME が内皮層に与える影響を検討しました。内皮細胞間の接着分子である VE-カドヘリンで染色を行ったところ，その発現が低下している傾向が見られ，血液中に還流させたエバンスブルー染色液が L-NAME 投与マウスにおいて血管外膜まで漏出しました。細胞間接着の脆弱化が血管透過性亢進を起こすことで，大動脈解離発症におけるエントリー形成に影響を及ぼしている可能性が示されました。

以上の基礎研究結果から，大動脈解離の発症には血管内皮障害が重要な役割を果たしていることが明らかとなり，ピタバスタチンは内皮細胞保護効果を介して抗炎症作用・抗酸化ストレス作用を示し，解離発症予防に寄与する可能性が示唆されました。我々が確立した大動脈解離モデルマウスは，遺伝子改変マウスを用いておりませんので，遺伝性の疾患によって発症する稀少疾患としての大動脈解離ではなく，加齢や高血圧，内皮機能異常といったいわゆる生活習慣病のアウトプットとしての解離発症の病態を，より忠実に再現できているのではないかと考えております。

３．大規模医療情報データベース解析を用いたスタチン系薬剤による大動脈解離発症予防効果の検証

近年，各種大規模医療情報データベース（または医療ビッグデータ）が新たな医学研究ツールとして広がりを見せています。レセプト情報や検査値，副作用報告などこれらは実臨床を反映しているデータを用いることから「リアルワールドデータ」とも呼ばれています。我々はその中から，独立行政法人医薬品医療機器総合機構（PMDA）に報告・蓄積されている医薬品副作用データベース JADER（the Japanese Adverse Drug Event Report）を用いて，薬物治療中に発症した大動脈解離に対するスタチン系薬剤の予防効果を検証しました。その結果，スタチン系薬剤を併用している群においては，併用なしの群に比べ有意に解離発症の報告例が減少していることが明らかとなりました（odds ratio：0.30，95% 信頼区間：0.13-0.69，p ＝0.0043）。

このように，大規模医療情報データベース解析で得られた結果が，モデルマウスを用いた薬効評価と一致しました。

今回の結果から，この新たなモデルマウスが薬効評価や病態解明に有用であることを示すと同時に，動物実験の結果を「リアルワールドデータ」の解析で再現し得ることを示すことができました。このことは，今後ますます有用性が高まってくるであろうデータベース研究で得られる知見を検証・評価する上で非常に示唆に富むものであると考えております。

これらの研究成果は共著者の先生方との共同作業なくしては得られません。多大なご協力をいただいた徳島大学医歯薬学研究部薬理学分野および臨床薬理学分野の先生方をはじめ，共同研究者の皆様に心より感謝申し上げます。今後も皆で力を合わせ，基礎研究とデータベース研究の利点を相互に生かし，不得手な部分は補い合う，という新たな研究手法を用いることで，より強固なエビデンスの創出を目指します。青藍会の先生方におかれましては，引き続きご指導ご支援を賜りますよう，何卒よろしくお願い申し上げます。

青藍会賞募集

2020年度青藍会賞募集

2020年度青藍会賞を下記のとおり募集します。

本賞は青藍会会員による学術研究の発展と奨励のために，若手研究者の優れた業績に対して授与するものです。奮ってご応募下さい。

1．応　募　資　格

2020年12月末現在で42才未満の青藍会正会員

但し，2020年度までの会費完納入者であること。

2．審　査　対　象

2016年１月から2020年12月までの研究業績を対象とします。

なお，選考では徳島大学で主として行われた研究であることを重視します。

3．応　募　締　切

2021年１月25日（月）（応募締切り後は提出書類の変更を認めません）

4．応　募　手　続

以下の書類を青藍会事務局へ提出して下さい。（原本とコピー各10部をご用意下さい）

① 申請書（別紙様式１）

② 履歴書（略歴）（別紙様式２）

③ 主指導者の推薦状（別紙様式３）

④ 原著論文（2016年１月～2020年12月末に発刊された原著論文；通し番号をつけ，年代の近い順に記載し，主たる論文３編には通し番号に〇をつけること。主たる論文は筆頭著者の論文に限定しない。応募者には下線をひくこと。）（別紙様式４）

⑤ 主たる論文３編の要旨（各400字程度）（別紙様式５）

⑥ 主たる論文３編の別刷り（コピー可）

⑦ 競争的資金の獲得状況（2016年１月～2020年12月末までに獲得した研究費の名称，研究期間，研究題目，直接経費の研究費総額。研究代表者の資金に限る。）（別紙様式６）

⑧ 今後の研究の展望（800字程度）（別紙様式７）

なお，同一推薦人が複数者を推薦する場合は推薦順位をつけること。

申請書等の各様式は青藍会事務局（seiran@tokushima-u.ac.jp）にご請求下さい。

5．選　　考

青藍会会長から委嘱された選考委員会が行います。

6．受　賞　者　数

原則一名

7．青藍会賞の授与

賞状及び研究助成金100万円の目録を青藍会総会開催日に授与します。

研究助成金は受賞者あてで教室への委任経理金（奨学寄附金）とします。

8．受　賞　講　演

青藍会総会開催日当日，受賞講演を行っていただきます。（30分程度）

お問合せ先

青藍会事務局　TEL 088-633-7109（内線2601）

第37回青藍会・医学科講演会について

令和２年10月22日に開催を予定しておりました第37回青藍会・医学科講演会は，徳島大学が新型コロナウイルス感染者の発生状況を受け，蔵本祭開催の中止を決定したことから，大変残念ながら，やむなく中止いたしました。

講師の白石吉彦先生に当日ご講演いただく予定でありました内容をご寄稿いただきましたので，掲載させていただきます。

離島医療はおもろいで！
～仲間づくり，仕組みづくり～

隠岐広域連合立隠岐島前病院　院長
白　石　吉　彦

はじめに

隠岐（おき）がどこにあるかご存知でしょうか？よく長崎県の壱岐（いき）と間違えられますが，隠岐は島根県の沖合50-80kmにある４つの有人離島と他の180の小島からなる諸島です。最も大きな島を島後（どうご）といい，約10km南西側にある３つの有人島を島前（どうぜん）と呼びます。島後には115床の隠岐病院があり，出雲空港，伊丹空港と一日一便で結ばれた隠岐空港がありますが，生活圏としては島前，島後は分かれています。島前は人口約6,000人，高齢化率43%，本土までフェリーで２時間半，高速船で１時間の距離にあります。医療機関はそれぞれの島に町村立の診療所があり，唯一の入院施設として44床の隠岐島前病院があります。開業医はありません。

図１　隠岐島前病院の位置

離島医療

離島医療と聞いて何を思い浮かべるでしょうか？南の島の白い砂浜，青い海，そして小さな診療所，ドクターコトー？，スーパードクターが身を粉にして働いている？，あるいは赤ひげ先生が人生をかけて患者さんに寄り添っている？日本各地あるいは世界各地にいろいろな離島医療があると思います。共通するのはいわゆる本土から隔絶されており，人物金に不足しているということ。また，多くの離島で少子高齢化が急速に進み，限界集落などざらにあるということ，あわせて教育や産業の問題を抱えています。

一概に日本で離島といっても本土との距離でいくつかのタイプに分かれます。湾内や瀬戸内海にあり台風直撃以外では船の便が途絶えない比較的近くの離島。島民も容易に本土と行き来できるため，医療的にも多くは外来機能のみが求められています。一方東京都の小笠原諸島や沖縄の隣の島まで何百キロといった絶海孤島系。医療的にも生活的にも特別な問題があると想像されます。あとは隠岐のようにフェリーで数時間といった近海の外洋離島。本土との行き来もそれほど大変ではないが，時化ると孤立するといった問題があります。さらに医師をはじめ医療スタッフの確保は困難を極めます。

島前診療所

私の赴任した1998年の当時の島前診療所（現隠岐島前病院）は４名の常勤医師がいましたが，長くて１年，短いと半年や３カ月交代で主に大学病院から派遣されてきていました。派遣されてくる医師は，それなりに使命感をもってやってきますが地域医療は医学的に正しいことが行われればよい，というものでもありません。その地域の医療や介護に関する歴史，文化などを理解するには時間が短すぎます。私自身も１年頑張って来い，といわれて送り出されました。

島にやってきて住んで生活してみると，目の前に海が広がっており，太古，火山でできた島で山にも雄大な自然があります。人もいいし，旬の野菜も魚も当然うまい。仕事に関しても総合診療を担う私にとっては，あらゆる疾患の初療に対応する必要のある島の医療はやりがい十分でした。１年ではとても満喫しきれないと思い，派遣元におそるおそる勤務の延長を申し出ました。すると，どうぞどうぞ，誰も行きたい医師はいないので，好きなだけいてくだ

さい，といわれほっとしたとともに，この地での医療，生活の魅力を発信する必要があると感じました。沖縄や東京の離島と違って，日本海の小さな離島にはだれも見向きもしないし，自治医大の卒業生にとってでさえ，一番貧乏くじといった勤務地だったのです。この島の面白さを伝えなければ，と思った私は，後輩たちに夏休みに遊びにおいで，奥さん彼女同伴大歓迎としました。同伴の意味は，本人がへき地医療をやりたいと思ってもパートナーの意向に沿わなければ，続けることが困難だからです。海水浴，貸ヨット・カヌー体験，イカ釣り船チャーター，夜は官舎の二階で雑魚寝といった合宿を数年間行いました。

医師10年目で院長

そんなことをしていた2001年，島暮らし３年目の終わりに，診療所長が定年退職，来年度から病院になるので，院長をやりなさいといわれたのが，34歳の時でした。当時の町長と県立中央病院長の，わしらが支えるからやれ，という一言で引き受けざる得なくなりました。院長になってみると一臨床医とは考えることが全く変わります。極端に言えば臨床医は患者さんのために頑張りました，寄り添いました，でよいのです。管理者になると，結果が重要で，医療の質，人材確保，経営がうまく回るかどうかがすべてです。まずは医師が長居したくなる仕組みづくりを考えました。一人の医師に負担がかからないよう，周囲の公立診療所をサテライト化し，医師の勤務体制を一括管理としました。診療所の医師も病院勤務日をつくり，当直も担当する，その代わり病院医師が診療所に代診に行く。それを支えるためにテレビ会議システムや web 型の電子カルテを採用し，島前地区内の医療機関で医療情報が共有できるようにしました。

広報として，自分たちの行っている医療看護，大切にしていることなどをあらゆる媒体，機会に発信するように努めました。例えば2013年の島根鳥取共催でおこなわれた全国国保学会では当院から私のランチョンセミナーに加えて，この学会最多の全部で10題の一般演題を発表させていただきました。公的なホームページや学会発表など以外にもＩターン目線で離島生活を紹介するブログを立ち上げ，島の生活を紹介しました。国際医療 NPO ジャパンハートとの交流なども加わり，医療系学生，研修医などの受け入れ数が年々増えていきました。

現在

医療の形も内科，外科，小児科の常勤医といった形から総合診療をメインとしました。よくある疾患には年齢，診療科を問わずに対応する，さらに必要なことは非常勤医で応援してもらうという形にしました。看護もユマニチュードなども取り入れながら，外来，病棟，在宅を言葉通りにシームレスに支える形となっています。2020年現在常勤医師も総合診療医７名となり，看護師30名中17名，リハビリスタッフ７名中４名がＩターンで確保できています。現在は，医療者が集まる病院となり，地域を巻き込んだ健康づくり，福祉分野との緊密な連携をつくりあげ，この地で地域包括ケアを展開しています。自分たち，そして次世代の医療者育成のための教育に重きを置きながら，自分たち自身が楽しめる職場づくりを行っています。最後に私の考える当院のミッション，ビジョン，クレドを紹介します。

表１　ミッション・ビジョン・クレド

ミッション―私たちの使命―
　隠岐諸島島前地区の住民が安心して過ごすために，医療を継続して提供する
ビジョン―私たちの目標―
　住民がこの地域に住んでよかった，職員がこの職場で働いてよかったと思う病院作りをする
クレド―私たちの信条―
　職員自身が仕事，生活をたのしむ
　教育を大切にする
　住民と話し合う
　患者の決定を尊重する
　いいと思ったことはやってみる
　結果は島前地区の住民のためになっているかで判断する
　よくないと思ったら，やめる，変える

図２　土日の余暇　学生実習生とともに

おわりに

日本海の小さな離島での取り組みの一端を紹介させていただきました。日本の片隅での地域医療づくりも国際協力の事業にも数多くの共通点があると思います。双方ともに大切なことはミッション，ビジョン，クレドがあり，仲間づくり，仕組みづくりだと考えます。

白石　吉彦（SHIRAISHI Yoshihiko）：離島総合診療医

略歴
1966年　徳島県石井町生まれ
1985年　徳島県立城北高校卒業
1992年　自治医科大学卒，徳島で研修，山間地のへき地医療を経験。
1998年に島根県の隠岐諸島にある島前診療所（現隠岐島前病院）に赴任。
2001年には院長になり，周囲のサテライトの診療所を含めて総合医の複数制，本土の医療機関との連携をとりながら，人口約6,000人の隠岐島前地区の医療を支えている。

2014年第２回日本医師会赤ひげ大賞受賞

拙著：離島発　いますぐ使える！外来診療小ワザ離れワザ（中山書店：2014）
THE 整形内科（南山堂　2016.5　書籍　編集幹事）
離島発とって隠岐の外来超音波診療（中山書店：2017）
離島発とって隠岐のエコーで変わる外来診療（中山書店：2019）

所属：日本プライマリ・ケア連合学会

青藍会の助成活動

クラウドファンディングへの挑戦

「一生インスリン注射が必要な子どもたちを救いたい！世界初の１型糖尿病根治に向けた研究に挑む」

徳島大学病院消化器・移植外科
池　本　哲　也（医学部44期）

徳島大学が行っているクラウドファンディング（CF）に挑戦しておりますので，プロジェクトの概略と，CF の達成状況等につきご報告致します。

１型糖尿病は自己免疫による膵β細胞の破壊からの絶対的インスリン枯渇によって生じる糖尿病です。発症しますと，生涯に亘る頻回の血糖測定・インスリン注射を余儀なくされます。若年発症も特徴で，様々なライフイベントと重なり，大きく QoL を損なうのみならず一生涯合併症の懸念もあります。重症化しますと無自覚の意識消失発作を繰り返すようになり，それ自体が生命を脅かす状況となりかねません。こういった患者さんにとっての根治的治療法が外科治療である移植（膵β細胞移植）ですが，本邦では脳死ドナーが極めて少ない状況ですので，移植はほとんど受けることが出来ないのが実情です。従って，１型糖尿病患者さんは「移植が唯一の根治的治療法だが，本邦では移植を受けることが出来ない」という重大なジレンマに陥ることになります。この「アンメット・メディカルニーズ」を再生医療研究で解決しようと考えました。

我々は種々の検討から，幹細胞から簡便で迅速なインスリン産生細胞（insulin-producing cell：IPC）分化誘導法を編み出し，これを３次元培養法・xeno-antigen free の方法に改変することで，臨床応用可能な「人工β細胞」製造のプロトコルを確立しました。その後，実際のヒト脂肪（１型糖尿病患者さんのものも含む）から脂肪由来幹細胞を分離し IPC を製造できることを証明しました。この一連の戦略は，日本医療研究開発機構（AMED）の「橋渡し研究戦略的プログラム」（シーズ B）に採択されましたので，ごく近い将来の医師主導治験を目指しています。Bench-to-bedside 研究として，世界初の「自己脂肪組織から精製した脂肪由来幹細胞から分化誘導した IPC の自家移植」という First-in-human 試験を確立するために，今後の研究活動を更に盤石なものとするべく，当 CF に挑戦することとしました。

2020年９月27日現在，残り40日ですでに目標額の82％に達しております。本紙面をお借りして青藍会のご会員の先生方のご指導・ご高配およびオツクルに関わる方々に厚く御礼申し上げます。また，１型糖尿病患者さんやそのご家族から，本研究に対するご支援・熱い激励を多数頂きまして，改めて身が引き締まる思いです。これからも科学的検証を重ねながら，迅速に臨床応用に向け全力で取り組んで参りますので，これからも変わらずご指導・ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

令和２年８月25日，徳島大学定例記者会見で本研究について説明を行った

クラウドファンディングへの挑戦

筋萎縮ゼロプロジェクト～ICUの患者さんにもう一度社会復帰してもらいたい～

中　西　信　人（医学部50期）

「クラウドファンディングをしてみませんか？」というメールが届いたことがきっかけでした。医師７年目で科研費もない私にとって研究費の確保は非常に大きな問題でした。しかし，クラウドファンディングというと人望や人脈があるすごい人がするものだと思っていましたし，目標金額が集まらなかったら恥ずかしいなっていうのが正直な思いでした。しかし，数万円でも研究費が集まればという思いから，笑われるのを覚悟でクラウドファンディングに挑戦してみました。

私が取り組んでいる研究はICUに入室する重症患者の筋萎縮についてです。重症患者はICU入室直後から筋萎縮が始まり，１週間で約15-20%の筋肉が萎縮します。これは病気自体の炎症はもちろんのこと，治療のための薬剤，動けないこと，栄養を摂取できないことなど様々な原因があります。この筋肉の萎縮をどのように評価するかが大きな課題です。超音波を用いて筋萎縮の評価が可能であるという研究を既にしておりましたが，それでは超音波の測定技術のある人しか筋萎縮の評価ができません。そこで尿中のタイチンという蛋白質を用いて筋萎縮の評価ができないか検討しました。タイチンは筋肉の中でアクチンとミオシンをつなぐバネのような役割を果たし，筋崩壊に伴い尿中に排泄されます。しかし，このタイチンという物質を測定するには多額の費用がかかります。そこでクラウドファンディングで研究費の支援を募りました。これらの重症患者の筋萎縮の原因・診断・予防に関する研究の発展を目指す取り組みが「筋萎縮ゼロプロジェクト」です。

恐る恐るフェイスブックに投稿してみると意外にも大学時代の友達が寄付をしてくれました。驚いたことに中学・高校・大学時代の友達，医療従事者，患者さん，会社の方，さらに面識はないがSNSでみて共感してくれた方々などに支援して頂くことができました。最終的には94人の方から目標金額を大きく上回る247万円の支援をして頂くことができました。笑う人など誰もいませんでした。初めて記者会見もして，新聞にも載りました。人望のない自分がここまで支援して頂くことができたのも，この研究の重要さ故にだと感じました。頂いた研究資金をもとに重症患者の筋萎縮評価はもちろんのこと，筋萎縮予防に向けた研究も発展させていきます。35歳にして人生をかけたプロジェクトが見つかりました。「筋萎縮ゼロプロジェクト」。まだまだ成し遂げたいことがあります。

徳島大学病院卒後臨床研修センターの活動報告

安　倍　正　博（医学部30期）

青藍会の皆様方には，日頃多くの研修医をご指導いただき，また徳島大学病院卒後臨床研修センターへのご支援を賜り，誠にありがとうございます。そして，新型コロナウイルス感染拡大への対策の影響で各病院が大きな影響を受け，対応に苦慮されている中で，研修医の受け入れやご指導を賜り，まずは敬意と共に改めてお礼を申し上げます。

今年は，新型コロナウイルス感染拡大の対応に振り回され，各研修医が研修終了要件を満たすために例年と全く異なる対応が求められております。特に，大学病院の研修プログラムは，県外の研修病院や地域の診療所など複数の施設で研修経験を積む襷掛けの研修を特徴としておりますので，県を跨ぐ研修医の移動の制限などにより大きな影響を受けました。各研修医が当センター教官と相談し独自に組んでいた当初の研修プログラムを変更せざるを得なくなり，受け入れ先の確保や調整に，西京子副センター長が中心となり知恵を絞り対応しております。今年度はプログラム説明会，レジナビへの参加，病院見学希望者の受入などこれまで行っていた広報活動が大幅に制限されていますので，新たな取り組みとして当センターの活動や研修プログラムを紹介する動画を作成し，ＨＰ等に掲載し情報発信をしております。また，感染拡大に伴い教育講座やセミナーが集会形式でできなくなり，テレビ会議システムを用いたオンライン参加の形式で行っております。研修プログラムのマッチングのための学生の面接もテレビ会議システムを用いたオンラインで行いました。

学生の講義や講演会もオンラインで行われるようになり，オンライン化が広く普及し，必須の手段になってきました。しかし，医師は人と人のつながりを生業とする職業です。人と人が対面で接することなくオンラインで繋がる傾向に一抹の不安と危惧を感じておりますが，逆にいろんな立場の方と場所や移動時間を問わず簡単に繋がり会議や協議ができるという大きなオンライン化のメリットもあります。また，対面では喋りにくいことでも，オンラインではしゃべることができる研修医や学生が多いこともわかってきました。このようなオンラインの側面は研修医のメンタルケアや臨床研修管理委員会の開催などにおいても大いに活用したいと考えております。

新型コロナウイルス感染対策は今後も長く続きますし，さらに困難な局面が来ることも想定されますので，これまでのセンターの活動，研修指導，研修医のケアなどの良い点は残しながらも，新しい手法を取り入れながら柔軟に対応する所存です。今後とも皆様方には，卒後研修に対するご理解と共にご指導・ご支援を賜りますよう，何卒宜しくお願い申し上げます。世界に再びうららかで静かな日々が早く戻ることを念じております。

７月１日開催の徳島大学病院卒後臨床研修プログラム説明会

条件付き参集の許可が出たことにより，感染対策を行い，久しぶりに学生が集まりました。久しぶりにみんなの元気な顔を見て，嬉しかったです。

書籍紹介

このコーナーでは，正会員，名誉会員及び学内関係者の著書を紹介することとしています。専門家向けの書籍および一般向けの書籍を紹介していきたいと考えています。自薦，他薦どちらでも結構です。青藍会事務局までお送り下さい。なお，掲載については広報委員会にご一任下さい。

「スワンレイクの夏―野生の白鳥たちの子育て―」

（発行元：株式会社　叢文社，2015年11月15日発行）

著者　橋　本　忠　世（医学部１期，ロヨラ大学名誉教授，在 U.S.A.）

塩　田　　洋（医学部14期）

著者の橋本氏は医学部１期生で，細菌学講師時代に２度目のアメリカ留学を果たし，１年間で帰国する予定であったが種々の理由でそのままアメリカに留まることになり，やがてはロヨラ大学の微生物・免疫学教室の Chairman や名誉教授にもなっている。その波乱に富んだ生涯は，青藍会会報第78号（１～14ページ）に詳しく記載されている。著者は退職後大学から少し離れたシカゴ郊外に住み，近くのゴルフコースに毎週通っていたそうである。今回紹介する本は，そのゴルフコース近辺の湖で出くわした白鳥の番いとその子育て完了までの約半年間に及ぶ世界で初めての自然（野生）観察記録である。著者の科学者としての鋭い観察力，高性能カメラを操るプロ級の写真技術が生み出した美しい写真の数々（全て自分で現像），加えて著者の白鳥家族に対する優しさが全編を通じて溢れており，素晴らしい一冊に仕上がっている。

４月25日一羽の白鳥が巣の真ん中に座り込み動かない。望遠で確かめると卵は７個あった。５月22日７羽の雛を発見。親鳥は生後の雛にどのように餌を与えるのか？何と雛たちは生まれた次の日から自分で湖に滑り込み，水面に浮かぶ水草を嘴で拾い，水とともに飲み込むようにして食べた。夏，雷雨を伴う嵐があった翌日，雛は６羽に減っていた。さて雛たちには秋までに習得しなければならないことがあった。飛ぶ事である。親鳥が力強く水面を蹴り20～30m 滑走，その後空中に舞い上がった。それを見た子供達は羽を思い切りばたつかせ滑走（水面を走る），少し離水したが直ぐに着水。これを繰り返し飛べるようになった。９月下旬編隊飛行の練習中，子白鳥一羽が橋の欄干に衝突し，敷板上に転落。一部始終を目撃していた著者はびっくりして現場に急行。足を引きずりながら歩こうとする怯えた子白鳥をみて，著者は駐車場へ走り車から非常用の毛布を取り出してきた。毛布でやんわりと白鳥全体を包み，更に白鳥に目隠しをして抱き上げ，そっと湖に放してやった。数日間，傷ついた白鳥は深い茂みの中でじっと休んでいた。10月に入ったある日，両親と元気な５羽の子供達は傷ついた子白鳥をあとに編隊を組み，南の空に飛び去って行った。残された子白鳥も，10月半ばを過ぎた頃南の空に飛び去ってしまった。

本書は野生白鳥の子育ての様子を，産卵から最後の飛行まで，自然環境の中で詳細に観察・記録している。読み終えると，著者の白鳥一家に対するやさしさと愛情を感ぜずにはいられない。孫達にもぜひ読ませたい一冊である。

なお著者と奥さんは現在，次男（外科医）さんの近くサンフランシスコ郊外の Santa Rosa に住んでいる。著者は2020年６月90歳になるが，ご健在と聞いている。

令和２年５月27日　記

徳島大学の動き

徳島大学大学院医歯薬学研究部新任教授紹介

徳島大学大学院医歯薬学研究部
薬理学分野
池　田　康　将（いけだ　やすまさ）
昭和45年11月30日生

略　　歴

平成９年３月	徳島大学医学部医学科卒業
平成９年６月	徳島大学医学部附属部病院第一内科医員（研修医）
平成10年４月	高松市民病院内科医員
平成12年４月	国立療養所大島青松園内科医師
平成12年10月	徳島大学医学部附属病院第一内科医員
平成13年１月	徳島県立中央病院循環器科非常勤嘱託医
平成15年５月	徳島大学病院循環器内科医員
平成16年４月	医療法人川島会川島循環器クリニック医師
平成18年３月	徳島大学大学院医学研究科博士課程修了（博士（医学））
平成18年５月	徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス（HBS）研究部 COE 研究員
平成19年３月	米国ボストン大学ワイタッカー心血管研究所博士研究員
平成21年４月	徳島大学大学院 HBS 研究部薬理学分野学術研究員
平成22年４月	徳島大学大学院 HBS 研究部薬理学分野特任助教
平成22年11月	徳島大学大学院 HBS 研究部薬理学分野助教
平成24年８月	徳島大学大学院 HBS 研究部薬理学分野准教授
平成28年４月	徳島大学大学院医歯薬学研究部薬理学分野准教授
令和２年８月	徳島大学大学院医歯薬学研究部薬理学分野教授 （現在に至る）

就任のご挨拶

徳島大学大学院医歯薬学研究部薬理学分野
教授　池　田　康　将（医学部43期）

玉置俊晃前教授の後任として，令和２年８月１日付けで薬理学分野教授を拝命いたしました。

私は平成９年に徳島大学を卒業後，第一内科（現 血液・内分泌代謝内科学分野）に入局し，前教授の松本俊夫先生のご指導のもと内科学を研鑽いたしました。大学院入学は卒後７年目とやや遅めでしたが，粟飯原賢一先生（現 地域医療推進分野特任教授），赤池雅史先生（現 医療教育学分野教授）のご指導のおかげで基礎研究の面白さに魅了され，学位取得後は米国ボストン大学へ研究留学する機会にも恵まれました。平成21年に帰国する際，基礎研究を続けようと薬理学分野に移動して現在に至ります。研究については，循環器疾患，腎臓病，肥満・糖尿病などの病態解明に薬理学的観点から取り組んでおります。今後も魅力ある研究を継続することに加えて，次世代を担う研究者育成に努めてまいります。また教育について，薬理学は基礎医学と臨床医学との橋渡し的な位置づけにあるため，統合型教育を取り入れることで医学知識の体系的理解につながるように尽力いたす所存です。

教室を盛り上げるべく研究・教育に精進してまいりますので，青藍会の先生方には今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

徳島大学大学院医歯薬学研究部
救急集中治療医学分野
大　藤　　純（おおとう　じゅん）
昭和46年７月９日生

略　　歴

平成９年３月	徳島大学医学部卒業
平成９年６月	高松赤十字病院麻酔科　研修医
平成11年４月	聖隷浜松病院麻酔科，救急科　医師
平成14年７月	徳島大学病院救急集中治療部　助教
平成23年８月	米国 Massachusetts General Hospital, Harvard Medical School, research fellow
平成26年４月	徳島大学病院救急集中治療部　助教
平成27年４月	徳島大学大学院医歯薬学研究部救急集中治療医学分野　講師
平成28年４月	徳島大学病院 ER・災害医療診療部　特任准教授
平成28年10月	徳島大学病院 ER・災害医療診療部　特任教授
平成29年４月	徳島大学病院　病院長補佐（救急災害担当），災害対策室長
平成30年４月	徳島大学病院　救急集中治療部　部長
令和２年８月	徳島大学大学院医歯薬学研究部救急集中治療医学分野　教授 （現在に至る）

就任のご挨拶

徳島大学大学院医歯薬学研究部救急集中治療医学分野
教授　大　藤　　純（医学部43期）

令和２年８月１日付で徳島大学大学院医歯薬学研究部救急集中治療医学分野教授を拝命いたしました。青藍会の先生方には謹んでご挨拶申し上げます。

私は，平成９年に徳島大学医学部を卒業後，徳島大学麻酔科学教室に入局した後，麻酔科および救急科医師として，全身管理や救急診療などの急性期医療を学びました。平成14年より徳島大学病院救急集中治療部にて重症患者の全身管理に携わり，人工呼吸管理や困難気道管理，重症患者の睡眠動態に関する研究に取り組んでまいりました。平成28年より徳島大学病院 ER・災害医療診療部特任教授として徳島県の救急・災害医療に携わり，平成30年からは徳島大学病院執行部・病院長補佐・災害対策室長も務めてまいりました。

近年では，毎年のように震災や豪雨災害が後を絶たず，また新型コロナウイルス感染症の蔓延もあり，これまで以上に救急・集中治療・災害医療への期待が高まっております。また，特定機能病院としての高度医療を支えてゆくことも重大な使命と考えております。

徳島県の急性期医療の発展のため，臨床･教育･研究に全力で取り組む所存ですので，青藍会の先生方には，今後ともご指導・ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。青藍会の益々の発展を祈念いたしまして，就任のご挨拶とさせていただきます。

徳島大学大学院医歯薬学研究部
産科婦人科学分野
岩　佐　　武（いわさ　たけし）
昭和51年８月26日生

略　　歴

平成14年５月	徳島大学医学部附属病院産婦人科医員
平成16年１月	健康保険鳴門病院産婦人科医師
平成16年４月	徳島大学医学部・歯学部附属病院産婦人科医員
平成19年４月	徳島赤十字病院産婦人科医師
平成20年６月	徳島大学医学部・歯学部附属病院産婦人科医員
平成22年４月	徳島大学病院地域産婦人科診療部特任助教
平成23年４月	徳島大学病院医員
平成23年６月	University of California Berkeley, Research scholar
平成24年11月	徳島大学病院医員
平成25年４月	徳島大学地域産婦人科診療部特任准教授
平成27年８月	徳島大学大学院医歯薬学研究部助教
平成28年10月	徳島大学地域産婦人科診療部特任准教授
令和元年10月	徳島大学病院周産母子センター講師
令和２年８月	徳島大学大学院医歯薬学研究部産科婦人科学分野教授 （現在に至る）

就任のご挨拶

徳島大学大学院医歯薬学研究部産科婦人科学分野
教授　岩　佐　　武（医学部48期）

このたび，令和２年８月１日付けで徳島大学大学院医歯薬学研究部産科婦人科学分野教授を拝命いたしました。

私は平成14年に徳島大学を卒業すると同時に前任の苛原稔先生が主宰する徳島大学産科婦人科学教室に入局し，徳島大学病院および関連施設にて臨床研鑽を積んでまいりました。専門は生殖医療で，一般的な不妊治療から生殖補助医療（体外受精・顕微授精）に至るまでの診療を主に担当しております。また，大学院時代から現在に至るまで生殖内分泌に関する研究を継続しており，最近では後輩たちに研究の魅力を伝えるべく日々努力しているところです。今後は徳島大学産科婦人科学分野のさらなる発展を目指し，臨床および研究に努めてまいる所存です。

最後になりますが，学生時代から現在に至るまで温かく見守っていただいた青藍会の先生方に心から感謝申し上げます。引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

徳島大学大学院医歯薬学研究部
実践地域診療・医科学分野 循環器不整脈学
添　木　　武（そえき　たけし）
昭和42年12月26日生

略　　歴

平成４年３月	徳島大学医学部医学科卒業
平成４年６月	徳島大学医学部附属病院医員（研修医）
平成５年10月	室戸病院内科医員
平成６年９月	国立善通寺病院内科・循環器科医員
平成14年４月	国立循環器病センター研究所生化学部流動研究員
平成17年４月	徳島大学医学部・歯学部附属病院循環器内科助手
平成17年10月	徳島大学（医学部・歯学部附属）病院循環器内科講師
平成23年１月	徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部循環器内科学講師
平成27年４月	徳島大学大学院医歯薬学研究部循環器内科学講師（名称変更）
平成28年４月	徳島大学大学院医歯薬学研究部循環器内科学准教授
令和２年４月	徳島大学大学院医歯薬学研究部実践地域診療・医科学特任教授（現在に至る）

就任のご挨拶

徳島大学大学院医歯薬学研究部
実践地域診療・医科学分野 循環器不整脈学
特任教授　添　木　　武（医学部38期）

令和２年４月１日付けで徳島大学大学院医歯薬学研究部 実践地域診療・医科学分野（循環器不整脈学）の特任教授を拝命いたしました。私は平成４年に本学を卒業後，旧第二内科に入局し，国立善通寺病院，国立循環器病センターなどで循環器並びに内科全般の診療・研究に携わり，平成17年から本学に復帰しました。本学では循環器内科学で不整脈を中心とした診療，研究，教育に従事し，准教授，総務医長として循環器内科学佐田政隆教授のサポートを行ってきました。今後は，引き続き徳島大学循環器内科学分野と連携し，本学における循環器・不整脈分野での診療・研究のさらなる発展に貢献することが出来ればと考えています。そして，（本寄付講座の設置元である）阿南医療センターにおいて，地域のニーズにあった循環器診療を実践し，今後の地域医療を担う内科医の育成に尽力できたらと思っています。特に，カテーテルアブレーション，ペースメーカー植込術などの不整脈関連手術を推進し，診療レベルの底上げに少しでも貢献出来ればと考えています。今後ともご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。末筆ではございますが，青藍会の益々のご発展をお祈り申し上げます。

徳島大学病院新任教授紹介

徳島大学病院麻酔科診療部特任教授
酒　井　陽　子（さかい　ようこ）
昭和46年12月４日生

略　　歴

平成９年３月　　徳島大学卒業
平成９年４月　　徳島大学大学院医学研究科
平成12年10月～平成21年12月　　徳島赤十字病院麻酔科
平成24年４月　　徳島大学麻酔科医員
平成25年６月　　徳島大学麻酔科助教
平成27年４月　　徳島大学麻酔科講師
平成29年４月　　徳島大学病院麻酔科診療部特任准教授
令和２年４月　　徳島大学病院麻酔科診療部特任教授
（現在に至る）

就任のご挨拶

徳島大学病院麻酔科診療部
特任教授　酒　井　陽　子（医学部43期）

令和２年４月１日付で徳島大学病院麻酔科診療部の特任教授を拝命いたしました。青藍会会員の先生方に謹んでご挨拶申し上げます。わたくしは平成９年に徳島大学を卒業後，徳島大学麻酔学教室に入局し，前教授の大下修三先生のご指導のもと，臨床や研究の経験を積ませて頂きました。その後徳島赤十字病院にて10年，平成24年からは徳島大学にて，新教授の田中先生のもと，麻酔科診療や研究に従事してまいりました。麻酔科医として20年以上たち，あらゆる外科的疾患や年齢，重症度の違う患者様の全身管理を安全に行いきることの難しさ面白さを感じる毎日です。徳島県においても高齢化が進み，医療もさらに発展する中で周術期をより安全に安心して過ごしていただけるよう麻酔科診療部として微力ながら努力して参る所存です。今後ともよろしくお願いいたします。

準会員だより

5年目の新生活

佐　藤　庸　介（医学科５年）

まずはクラス紹介として現在の医学科５年生の生活に関して紹介していきたいと思います。医学科５年生は昨年共通試験を合格し，徳島大学病院内での臨床実習を始めています。臨床実習では２週間に１診療科を回り，１年間で24の診療科で実習をさせていただきます。各診療科では実際に担当患者さんを割り振っていただき，毎日患者さんのお話を伺うことができます。臨床実習では４年生までに教科書で習ったことの総括のような側面と実際に病気を抱えていらっしゃる患者さんとの会話や先生方が行っている手技の見学から新しいことを学ぶ側面があります。日々新しいことを学び吸収するつもりで僕たちは臨床実習に臨んでいます。しかし，現在は新型コロナウイルスの影響で臨床実習はパソコンを使った遠隔での授業となっています。患者さんと関わる機会はないものの実際に患者さんを目の前にした時にどういうお話ができるかを頭の中で想定しながら実習を行っています。まだまだ知識不足な自分たちを肌で感じながら日々勉強に励んでいます。

さて，僕が医学科に入学してから早５年が経とうとしています。医学科はどんな授業をするのか，早く医者になりたい，そんなことを考えながら胸を躍らせていた新入生の時期が懐かしいです。卒業まで１年近くになり医学科で受けた授業，友達と過ごした日々を振り返る日も多くなってきました。医学科で受けた授業は医療についてのことだけでなく人とのかかわり方や歴史の授業，音楽の授業などもありました。学年が上がるにつれて専門性の高い授業になっていきましたが，医学への興味は尽きませんでした。日々進化している医療はいくら勉強してもすべてを解明できるものではなく，まだまだ解明されていない疾患や理論があり，将来が不安になった時期もありました。しかし，周りでともに勉学に励む仲間や親身に相談に乗ってくださる先輩方のおかげで不安はなくなり，わからないことは自分から調べることが大切だという探求心も生まれました。医学科での授業は想像以上に大変でしかし，探求心の尽きない面白いものでした。

医学生と言えばもちろん勉学です。しかし，部活動も盛んに行われています。毎年夏に行われる医学生が集まる大会では，徳島大学の各部活が上位の成績を残します。僕はテニス部に所属していますが，昨年は全国大会に出場できました。全国大会に行って感じたことがあります。部活動にここまで打ち込める理由は何なのかと。大会で上位の成績を残している医学生のほとんどは学校の成績の上位であり，どうすれば両立ができるのか。その答えを仲良くしてくださっている先輩が教えてくださいました。彼らにはメリハリがあるのだと。勉学もスポーツもだらだらと長時間やっていては馴れ合いになってしまい，どちらもいい結果は出ないということでした。これは将来医者になった時にも言えることだと思います。メリハリのない生活をしていると仕事も私生活も馴れ合いになってしまい，最悪患者さんの不利益になってしまうことが起きるかもしれない。そうならないために医学生である今からメリハリのある生活を心がけていけたらいいなと思います。特に現在は新型コロナウイルスの影響で学校に立ち入ることができず自宅で過ごすことの多い生活です。どういう生活をするかは自分次第で何ともなる状況だからこそ医学生としての自覚ある生活を過ごしていきたいです。

青藍会の動き

教授就任のご挨拶

広島大学大学院医系科学研究科小児科学教授
岡　田　　賢（おかだ　さとし）
昭和48年７月11日生
（医学部45期）

略　　歴

平成11年３月	徳島大学医学部医学科卒業
平成11年４月	広島大学医学部附属病院小児科 研修医
平成12年４月	広島赤十字・原爆病院小児科 研修医
平成13年11月	中国労災病院小児科 医員
平成16年６月	広島大学医学部付属病院小児科 医員
平成19年９月	広島大学大学院医歯薬学総合研究科 博士課程卒業
平成20年６月	広島大学病院小児科 助教
平成22年３月	米国ロックフェラー大学 博士研究員（３年６ヶ月間）
平成27年６月	広島大学大学院小児科学 講師
令和２年３月	広島大学大学院小児科学 教授
	（現在に至る）

2020年３月１日付けで広島大学大学院小児科学の教授を拝命致しました医学部45期生の岡田賢です。この場をお借りして，青藍会会員の先生方に謹んでご挨拶申し上げます。

私は1999年に徳島大学を卒業後，出身地である広島大学小児科に入局しました。大学病院，関連病院での勤務を経て一般診療を学んだ後，2004年から大学院に入学しました。もともと研究に興味があったこともあり，2010年からは野口英世が研究に従事した米国ロックフェラー大学に留学し，原発性免疫不全症の研究に取り組みました。当時は全エクソーム解析が始まったばかりの時期で，留学中にその解析技術を習得したのを契機に研究が大きく花開いたと実感しています。この経験を教訓に，若手の国内外留学を積極的に推し進め，グローバルに活躍できる人材育成に努めたいと考えております。

ちょうど昨年，医学部45期生の同窓会に参加しました。卒後20年が経過するなか，同期の先生方が変わらず，それぞれの分野で活躍されているのを知り，勇気付けられたのを覚えています。一方で，徳島大学病院は新しくなっており，時の流れを感じた次第でした。今後も，徳島大学に育てていただいた恩を忘れず，卒業生としての誇りを持って励む所存です。

最後になりましたが，青藍会の益々のご発展を祈念致します。今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒宜しくお願い致します。

兵庫県立大学看護学部保健医療福祉系教授
上　村　浩　一（うえむら　ひろかず）
昭和41年６月10日生
（医学部38期）

略　　歴

平成４年３月	徳島大学医学部医学科　卒業
平成４年６月	徳島大学医学部附属病院医員（研修医）（産科婦人科）
平成９年３月	徳島大学大学院医学研究科　修了
平成９年４月	徳島大学医学部附属病院医員（産科婦人科）
平成９年９月	高知赤十字病院（産婦人科）
平成11年４月	徳島大学医学部附属病院医員（産科婦人科）
平成14年６月	徳島大学医学部助手（産科婦人科）
平成17年５月	徳島大学医学部・歯学部附属病院助手（産科婦人科・外来医長）
平成18年４月	徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部助手（予防医学分野）
平成19年４月	徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部講師（予防医学分野）
平成23年１月	徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部准教授（予防医学分野）
平成27年４月	徳島大学大学院医歯薬学研究部准教授（予防医学分野）（研究部の名称変更）
令和２年４月	兵庫県立大学看護学部保健医療福祉系教授 （現在に至る）

令和２年４月１日付けで兵庫県立大学看護学部保健医療福祉系教授を拝命致しました。

私は平成４年に徳島大学を卒業後，徳島大学産科婦人科学教室に入局し，青野敏博先生，苛原稔先生の歴代教授のご指導のもと，臨床および研究をはじめ多くのことを学ばせていただきました。このたび，私が勧誘係の折に入局していただいた岩佐武先生が教授にご就任され，たいへん嬉しく思っています。平成18年からは徳島大学予防医学分野で有澤孝吉教授のもと，日本の大規模な疫学研究に携わるという貴重な経験を積ませていただきました。他分野の先生方とも多くの共同研究をさせていただき，現在もいくつか継続させていただいております。学生時代のたけのこ連の連長をはじめ，徳島での生活は楽しい想い出ばかりです。

兵庫県明石市で勤務していますが，新型コロナウイルスの影響で，異動後いきなり緊急事態宣言が出され，戸惑うことも多かったのですが，やっと落ち着いてきました。徳島大学および青藍会の先生方に教わったことを糧にして，少しでも医療に貢献できるよう，教育や研究に取り組んでいく所存です。

青藍会では医学部38期の評議員をさせていただいております。今後ともご指導・ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。青藍会の益々のご発展を祈念し，挨拶とさせていただきます。

香川大学医学部皮膚科学教授
大　日　輝　記（だいにち　てるき）
昭和46年６月５日生
（医学部42期）

略　　歴

平成８年３月	徳島大学医学部医学科卒業
平成13年２月	徳島大学大学院医学研究科修了（寄生虫学）
平成13年３月	九州大学医学部附属病院皮膚科 医員
平成18年４月	九州大学病院皮膚科 助手
平成19年４月	久留米大学医学部皮膚科学 講師
平成21年６月	コロンビア大学医学部微生物学免疫学講座 博士研究員
平成25年１月	京都大学大学院医学研究科皮膚科学 講師
平成31年２月	京都大学大学院医学研究科皮膚科学 准教授
令和２年４月	香川大学医学部皮膚科学 教授
	（現在に至る）

令和２年４月１日付で香川大学医学部皮膚科学教授を拝命いたしました。

本教室は昭和57年に香川医科大学皮膚科学教室として開講，平成15年に香川大学医学部の教室となり現在に至っています。高岩堯初代教授，窪田泰夫前教授に続き３代目となります。

私は平成８年に徳島大学を卒業し，九州大学から赴任された姫野國祐教授が主宰する寄生虫学教室で感染免疫を学びました。学位取得後，姫野教授の勧めで九州大学皮膚科に入局，長崎県対馬での離島医療を経験の後，久留米大学皮膚科を経て留学，帰国後京都大学皮膚科で７年余を過ごしました。表皮と炎症の研究に取り組む一方，サブスペシャリティとして水疱症，脱毛症の臨床経験を積み，多くの指導者や同僚，後輩に育てられてきました。

新しい教室は小さいけれど夢と可能性に満ちています。徳島出身の私にとって縁深いこの地で，皮膚科学，皮膚科診療の進歩と発展に寄与して参りたいと思います。教室も私もまだ未熟ですが，生活や家族を大切にしつつプロフェッショナルとして成長できる場をともに用意して，大学，病院，地域とともに成長し続けたいと思います。

新しい環境で仲間に加わり，一緒に成長してくれる方々の参加を心から歓迎します。

病院長就任のご挨拶

ご挨拶

愛媛県立中央病院院長
菅　　政　治（医学部28期）

令和２年４月１日に愛媛県立中央病院院長を拝命しました菅政治です。青藍会の皆様に一言ご挨拶をさせていただきます。私は，1982年泌尿器科学教室（黒川一男教授）に入局，1997年香川征教授の時に，郷里の愛媛県立中央病院に赴任いたしました。当院は病床数827床で高度救命救急センター，総合周産期母子医療センターなどを併設し，災害時や感染症対応などでも県内医療の中心的役割を求められている多機能病院です。その発展に際し，徳島大学ならびに青藍会の皆さまに多大なお力添えをいただきましたことを，心より感謝申し上げます。現在，医師数は283名（研修医含む）で，愛媛大学関連が2/3を占めますが，多くの科で複数の大学より派遣をいただき，徳島大学からは消化器外科，泌尿器科，皮膚科，放射線科，腎臓内科，病理診断科にご支援をいただいております。また，次世代を担う学生や若い医師の教育，育成にも力を入れており，徳島大学ともより連携し，皆様のお役に立てればと考えております。

珍宝連で踊った日々は遠くなりましたが，諸先輩方の教えをもとに，職員と協力し，与えられた職務を全うしたいと思っております。青藍会の皆様におかれましては，今後とも引き続き，ご指導，ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

投稿規定

広 報 委 員 会

○ 原稿について

●必ず，文頭にタイトル，氏名・卒業期をご記載ください。
　例　タイトル ○ ○ ○ ○ ○ ○　　山　田　太　郎（医学部○期）

●**文字数は1,400字以内，写真は１枚でお願いいたします。**
なお，写真には見出しあるいは説明文を必ずつけてください。

●英数字は半角文字で，カタカナは全角文字で入力してください。

●原稿の文中に登場する氏名及び敬称については，スペースを入れずに記載してください。
（例　山田太郎君　　高倉健さん　　松下幸之助先生）

○ 原稿及び写真の送付について

●原稿送付は，可能な限りメール添付または電子媒体にてお送りください。
プリントされた写真については，郵送にてお送りください。後日，返送いたします。

●画像ファイルを送付される場合は，**原稿とは別に，JPEG ファイル等でお送りください。**
原稿（Word 等）に貼り付けますと，画質が悪くなります。
なお，画像ファイルの容量が大き過ぎますと届かないことがございます。容量を小さくして１枚ずつに分けてお送りください。また，**青藍会事務局からの連絡がなかった場合は，届いていないことが考えられますので，再度確認のご連絡をお願いいたします。**

○ 原稿の締め切り日を厳守願います

会報の印刷および製本には，原稿をお預かりした後，ゲラ刷り作成，校正，修正，編集会議等で２ヶ月ほどの時間を必要といたします。
締め切り日より遅れた場合は，次号の掲載になりますので予めご了承ください。

○ 編集作業について

●お送りいただきました原稿は語句などに関して広報委員会で校閲させていただきます。その結果，修正をお願いする場合もございますことをご了承おきください。

●用語や表記などの統一のために文章に手を入れることがございます。予めご了承ください。

○ 原稿校正について

●広報委員会で会報全頁のレイアウト等を校正後，製本前のゲラ刷りを作成しお送りさせていただきますので，著者校正をお願いいたします。

●**校正時の大幅な追記，削除等は，会報発行期日に影響いたしますので，ご遠慮くださいますようよろしくお願い申し上げます。**

編　集　後　記

４年間会長を務めてくださった桜井えつ先生が今年７月に退任されました。在任中はご苦労も多かったと思いますが，実にしなやかに，母校愛にあふれた舵取りをしてくださいました。逼迫した財政状況や事務局機能の改善に取り組まれ，寄付金や会報の広告で得た収益は母校への貢献，医学科，研究者，学生支援に重点を置き若い世代に還元されました。会費徴収率アップのためにコンビニ振込，会報とは別便の会費請求なども工夫されました。同じ女性医師として誇らしく，その功績に深く感謝いたします。

私が駆け出しのころの医療界は完全なオトコ社会で女性医師の氷河期でありました。オンナがキャリアを積むには，体力と強靱な精神力，毒や槍から自分を守る硬い甲羅，のようなものが必要でした。覚悟と理想を持って道を進もうにも，期待もされず，ポストもない。結婚出産を経てこの茨の道をどう歩いて行くべきか，もがき苦しんだ時期がありました。桜井先生はそのような私の道を20年にわたりほんのりと照らしてくださった灯台でした。「大丈夫，いけるいける」の言葉に随分救われました。そこからつながりができた様々な年代の先生方の柔軟な生き方を目の当たりにするうちに，私の硬い甲羅はゆっくりと溶けていきました。道には落とし穴やデコボコがあり，つまずいてこけることもありますが，気がつくとそれは茨の道ではなくなっていました。道はまだまだ続きます。

青藍会は今年，会長の交代という大きな節目の年でしたが総会での集いはCOVID19パンデミックでかなわぬこととなりました。残念です。その中でもご寄稿してくださった大勢の先生方のおかげで，第96号青藍会会報を発行することが出来ました。お礼申し上げます。

COVID19との付き合いも長丁場になりそうで，総会や同窓会などのありかたも変化せざるを得ないでしょう。大学もオンライン授業が取り入れられ，母校への帰属意識はますます希薄になりそうです。医療機関はCOVID19の対策に追われ，患者対応，自分たちやスタッフの感染予防にも神経をすり減らす一方経営状態は悪化するし，明るい話題がありません。それでも荒瀬誠治新会長がおっしゃるように，私たちが医療者の本分を全うし胸を張って誇りを持って生きていくことが，青藍会の発展につながると信じています。灯台のあかりを絶やさぬように，次の世代を照らしていくこと。困ったときの拠り所になれること。それが私たちの使命であると思います。

高橋浩子（医学部34期）

非　売　品

青藍会会報第96号

令和２年12月４日印刷
令和２年12月10日発行

編　　集　徳島大学医学部医学科同窓会青藍会
〒770－8503　徳島市蔵本町３丁目18－15
電話（088）633－7109（内線2601）
FAX（088）633－3180（青藍会事務室）
E-Mail　seiran@tokushima-u.ac.jp
URL　http://www.seirankai-tokushima.jp/
振替　01680－４－8671
ゆうちょ銀行 一六九店（169）
当座 0008671 青藍会

発 行 者　青藍会会長　荒　瀬　誠　治

印 刷 所　グランド印刷株式会社
徳島市万代町６丁目20－15　電話（088）622－8448